取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

TABLE OF CONTENTS
目次

TABLE OF CONTENTS | 目次

1 運転する前に

2 運転するときに

4 お手入れのしかた

4-1. お手入れのしかた

4-2. 簡単な点検・部品交換

5 トラブルが起きたら

5-1. まず初めに

5-2. 緊急時の対処法

6 車両仕様

6-1. 仕様一覧

6-2. カスタマイズ機能

さくいん

外観

ワイパー P. 147
方向指示灯 P. 135
ムーンルーフ ＊ P. 73
ヘッドライト（ロービーム）P. 144
ドアミラー P. 66
ボンネット P. 235
方向指示灯 P. 135
補助確認装置 P. 67
サイドカメラ ＊※
ヘッドライト（ハイビーム）P. 144
車幅灯 P. 144
フォグライト P. 146

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

室内

助手席アッパーボックス P. 200
ヘッドレスト P. 54
シートベルト P. 58
ボトルホルダー P. 198
ラゲージルームライト P. 191
助手席 SRS エアバッグ P. 85
A
B
C
CTNPIAJ023
バックドアポケット P. 199
グローブボックス P. 194
リヤシート ＊ P. 46
フロントシート P. 41
カップホルダー P. 197
アームレスト P. 209
SRS サイドエアバッグ P. 85
リヤシート P. 46

A

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

B
ドアロックレバー P. 35
パワーウインドウスイッチ P. 70
ドアロックスイッチ P. 35
ウインドウロックスイッチ P. 70
ALL AUTO
CTNPIAJ033

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

インストルメントパネル

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

B
▶ タイプ A
オーディオスイッチ※
電話スイッチ ＊※
MODE
SRS
AIRBAG
CANCEL
+ RES
− SET
CTNPIAJ044
ホーン（警音器）P. 137
トークスイッチ ＊※
クルーズコントロールスイッチ P. 151
▶ タイプ B
オーディオスイッチ※
電話スイッチ ＊※
MODE
SRS
AIRBAG
CANCEL
+ RES
− SET
CTNPIAJ066
ホーン（警音器）P. 137
トークスイッチ ＊※
クルーズコントロールスイッチ ＊ P. 151

C

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

D
プラズマクラスター® スイッチ ＊ P. 187
シートヒータースイッチ ＊ P. 211
CLEAN
Ion
ION
L
R
CTNPIAJ028
フロントワイパー
デアイサースイッチ ＊ P. 186
シガレットライター P. 207

ラゲージルーム

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

違法改造について

● トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。

● 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故をおこし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

● ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはＳＲＳエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換。
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。
・ 電装品・無線機などの取り付け、取りはずし。
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

● フロントウインドウガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼りつけないでください。視界を妨げるばかりでなく、違法改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

ほかの車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

酒気帯び運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思いがけない事故により最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」（→P. 106）をお読みください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。(法律で義務づけられています。)

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

⚠警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

⚠注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

知識

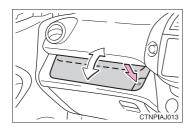
機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について

セーフティーシンボル

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味を表しています。

操作を示す矢印

➡ スイッチなどの操作（押す、まわすなど）を示しています。

⇨ 操作後の作動（ふたが開くなど）を示しています。

運転する前に

1

キー

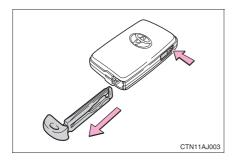
お客様へ以下のキーをお渡しします。

1 電子キー

・ スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P. 24）
・ ワイヤレス機能の作動（→P. 34）

2 メカニカルキー

3 キーナンバープレート

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出す

使用後は元に戻し、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P. 316）

知識

■キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。万一キーを紛失した場合、トヨタ販売店でキーナンバーと残りのキーから新しいキーが作製できます。（→P. 315）

■航空機に乗るときは

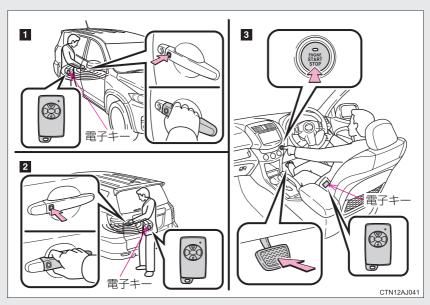
航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

注意

■キーの故障を防ぐために

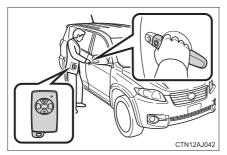
- キーに衝撃を与えたり、直射日光のあたる高温な場所にさらしたり、濡らしたりしないでください。
- キーを磁気のあるものに近づけたり、電磁波を遮断するものをキー表面に貼り付けたりしないでください。

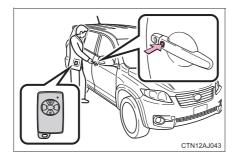
スマートエントリー＆スタートシステム

電子キーをポケットなどに携帯するだけで以下の操作がおこなえます。（必ず運転者が携帯してください。）

1 ドアの施錠・解錠　（→P. 25）

2 バックドアの施錠・解錠　（→P. 26）

3 エンジンの始動　（→P. 126）

ドアの解錠・施錠（フロントドアハンドルのみ）

ハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実に触れてください。

施錠操作後３秒間は解錠できません。

ロックスイッチを押して施錠する

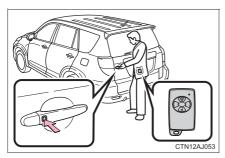
バックドアの解錠・施錠

CTN12AJ052

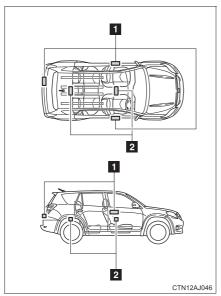
ハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実に触れてください。

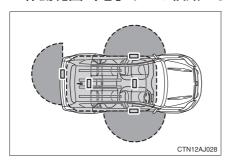
施錠操作後３秒間は解錠できません。

CTN12AJ053

ロックスイッチを押して施錠する

アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置

1 車外アンテナ

2 車内アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）

:ドアの施錠・解錠時

各ドアハンドルから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

:エンジン始動時またはモード切り替え時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

知識

■作動の合図

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態で、ドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてからもう一度施錠してください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しない場合があります。
(対処方法:→P. 316)

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●電子キーが金属製のものに接したり、覆われたりしているとき

●複数の電子キーが近くにあるとき

●電子キーを、以下のような電波を発信する製品と同時に携帯または使用しているとき

- ほかの車の電子キー
- 電波式ワイヤレスリモコン
- パソコン

●リヤガラスに金属を含むフィルムが貼ってあるとき

■節電機能

電子キーの電池と車両のバッテリー保護のため、以下の状況ではスマートエントリー＆スタートシステムを停止します。

●2 週間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

●車両の外約 70cm 以内に電子キーを 10 分以上放置した

以下のいずれかをおこなうと、スマートエントリー＆スタートシステムが復帰します。

●ドアハンドル上のロックスイッチで施錠する

●ワイヤレス機能で施錠・解錠する（→P. 34）

●メカニカルキーで施錠・解錠する（→P. 316）

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は1～2年です。（電子キーを使用しなくても電池は消耗します。）スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレス機能が作動しなかったり、作動範囲が狭くなったりする場合は、電池が消耗している可能性があります。電池が弱ったら新しい電池に交換してください。（→P. 263）

●電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。（→P. 31）

●電池の著しい消耗を防ぐため、以下のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子キーを置かないでください。

・ＴＶ
・パソコン
・充電中の携帯電話やコードレス電話機
・電気スタンド

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近づけすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。）

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、以下のような場合は正しく作動しないことがあります。

・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近づきすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
・エンジン始動時またはモード切り替え時に電子キーがインストルメントパネル上やフロア上、またはグローブボックス内などに置かれていた場合

●インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。

●車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、エンジン始動が可能になる場合があります。

●洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます。）

●手袋をはめていると、ドアハンドルを握っても解錠されない場合があります。

●車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレス機能などで施錠をおこなうと、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレス機能を使って解錠すると復帰します。）

●車外アンテナの作動範囲内への急な接近やドアハンドル操作では、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度元の位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

■長期間運転しないときは

盗難防止のため、電子キーを車両から 2 m 以上離しておいてください。

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、自動的に施錠されます。

■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、警告灯が点灯したりすることがあります。警告灯が点灯した場合は、状況に応じて適切に対処してください。(→P. 281)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は以下のようになります。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と 2 秒間鳴る	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出した後、再度施錠してください。
車外から“ピー”と 10 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めた後、再度施錠してください。
車外から“ピー”と 60 秒間鳴る	“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした	“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にした後、再度施錠してください。
車内から“ピー”と 1 回鳴る	“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードにしてから約 20 分以上経過し、その後 OFF にしたときに、電子キーのバッテリー電圧が低下していると判断したとき	電子キーの電池を交換してください。(→P. 263)

警告音	状況	対処方法
車内から“ピー”と鳴り続ける	“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON またはアクセサリーモードのとき、シフトレバーを P 以外に入れたまま、ドアを開けて外に出ようとした	シフトレバーを P に入れてください。
車内から“ピー、ピー”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態で“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にした後、運転席ドアを閉めてください。
	運転席ドアが開いている状態で“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にした	運転席ドアを閉めてください。

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないときは

● ドアの施錠、解錠：→P. 316

●エンジン始動：→P. 316

■電池が切れたときは

→P. 263

■販売店で設定可能な機能

スマートエントリー&スタートシステムの作動を非作動にするなどの変更ができます。（カスタマイズ一覧 →P. 338）

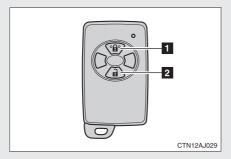
警告

■電波がおよぼす影響についての警告

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されているかたは、車内アンテナ・車外アンテナから約 22 cm 以内に近づかないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。(→P. 27)
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

ワイヤレスリモコン

ドアを施錠・解錠できます。

1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

知識

■作動の合図

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態で、ドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてからもう一度施錠してください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

→P. 28

■電池の消耗について

→P. 29

■解錠操作のセキュリティ機能

→P. 30

■電池が切れたときは

→P. 263

■販売店で設定可能な機能

ワイヤレスリモコンの作動を非作動にするなどの変更ができます。
(カスタマイズ一覧 →P. 338)

ドア（フロントドア、リヤドア）

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレス機能、キー、ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

■ スマートエントリー＆スタートシステム

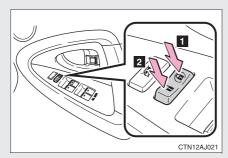
→P. 25

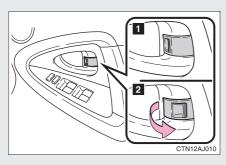
■ ワイヤレス機能

→P. 34

■ キー

メカニカルキーを使ってドアを施錠・解錠できます。(→P. 316)

■ ドアロックスイッチ

1 全ドア施錠
2 全ドア解錠

■ ドアロックレバー

1 施錠
2 解錠

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開けられます。

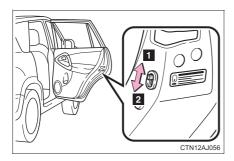
キーを使わずに外側からフロント席を施錠するときは

手順 1 ロックレバーを施錠側にする。

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める。

“エンジンスタートストップ” スイッチがアクセサリーまたはイグニッションONモードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

電子キーの位置によっては、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤドアが内側から開かなくなります。

1 解錠

2 施錠

お子さまが内側からリヤドアを開けないようにできます。両側のリヤドアを施錠側にしてください。

知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

警告

■事故を防ぐために

運転中は以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず使用する
- すべてのドアを施錠する
- すべてのドアを確実に閉める
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
  ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  とくに、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをセカンドシートに乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときは

傾斜地、ドアと壁などの間が狭い場所、強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

バックドア

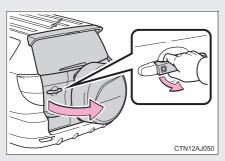
スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレス機能、ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

■ バックドアの施錠・解錠

▶ スマートエントリー＆スタートシステム
→P. 26

▶ ワイヤレス機能
→P. 34

▶ ドアロックスイッチ
→P. 35

■ バックドアの開け方

ドアハンドルを引いてドアを開けます。

必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。

警告

■走行中の警告

●走行中はバックドアを閉じてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキ、急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

■お子さまを乗せているときは

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが作動したり、閉めるときに手、頭、首などを挟んだりするおそれがあります。

■バックドアの操作にあたって

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

警告

●強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

CTN12AJ048

●半開状態で使用すると、バックドアが閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。

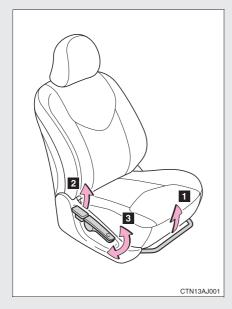
CTN12AJ031

●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

●バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。

●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。
バックドアの重量が重くなると、開閉操作のさまたげとなったり、不意に閉じたりするおそれがあります。

■**駐停車するときは**

バックドアを開けて駐停車するときは、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。バックドアが開いていると非常点滅灯などが見えなくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

フロントシート

▶ マニュアルシート*

1 前後位置調整

2 リクライニング調整

3 シート全体の上下調整※

※：運転席のみ

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

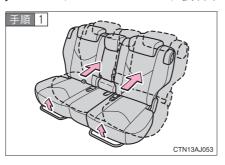
▶ パワーシート*

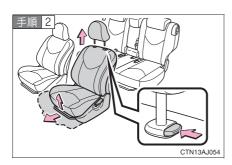
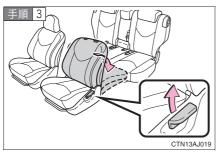
1 前後位置調整
2 リクライニング調整
3 クッション前端の上下調整※
4 シート全体の上下調整※
5 腰部硬さ調整※（ランバーサポート）

※：運転席のみ

フラットシートの作り方

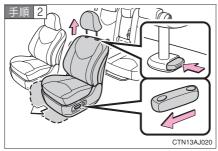
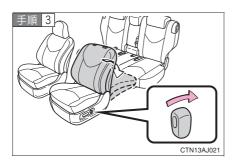
フロントシートとセカンドシートでフラットシートにすることができます。

▶ フロントマニュアルシート装着車

スライドレバーを引き上げながらセカンドシートを一番うしろまで移動させる。

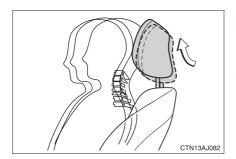
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

フロントシートのヘッドレストを取りはずし、シートを一番前まで移動させる。

リクライニングレバーを引き上げながら、背もたれを一番うしろまで倒す。

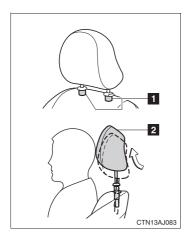
もとにもどすときは、逆の手順でおこないます。

▶ フロントパワーシート装着車

スライドレバーを引き上げながらセカンドシートを一番うしろまで移動させる。

フロントシートのヘッドレストを取りはずし、シートを一番前まで移動させる。

リクライニングスイッチを押しながら、背もたれを一番うしろまで倒す。

もとにもどすときは、逆の手順でおこないます。

アクティブヘッドレスト

追突の衝撃によって、乗員の腰がシートバックを押すことでヘッドレストが少し斜め上方に動き乗員のむち打ち傷害軽減に貢献します。

知識

■アクティブヘッドレスト

シートバックへの衝撃が弱い場合でもアクティブヘッドレストが作動することがあります。なお、解除ボタンを押さずにヘッドレストを無理に押し上げると、ヘッドレストの構造部品が出てきますが、故障ではありません。

1 構造部品

2 作動状態

警告

■シート調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- マニュアルシートのみ：シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

■フラットシートについて

フラットにした状態で人や荷物をのせて走行しないでください。

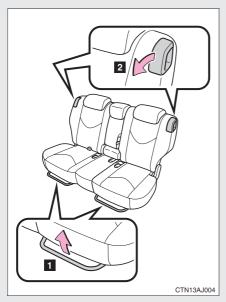
リヤシート

■ セカンドシート

▶ サードシート装着車

1 前後位置調整

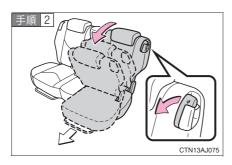
2 リクライニング調整

▶ サードシート装着車を除く

1 前後位置調整

2 リクライニング調整

サードシートへの乗りおり（サードシート装着車）

■ 乗りおりするときは

セカンドシートベルトをベルトハンガーに挟む。

セカンドシートを前方へ移動させる。

レバーを引きながら、背もたれを手で前へ倒すと、シートが前方へ移動します。

■ 乗りおりしたあとは

手順 1 セカンドシートの背もたれを固定される位置まで起こす。

手順 2 セカンドシートを後方へ押し下げて固定させる。

手順 3 セカンドシートベルトをベルトハンガーからはずす。

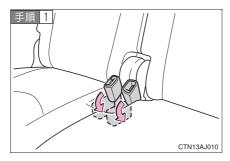
⚠ 警告

■ サードシートへ乗りおりしたあとは

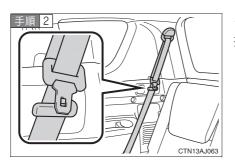
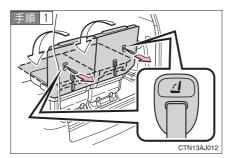
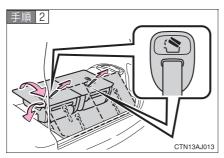
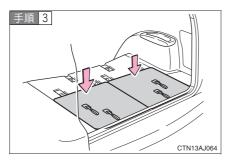
急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

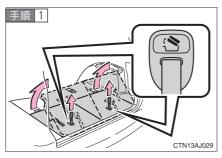
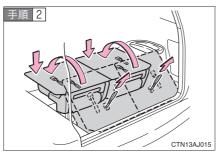
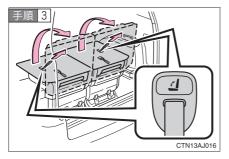
- セカンドシートを確実に固定させる。
- セカンドシートベルトをベルトハンガーからはずして着用する。

サードシートの格納

■ 格納するまえに

バックルを格納する。

シートベルトをベルトハンガーに挟む。

手順 3 ヘッドレストを一番下まで下げる。(→P. 54)

■ 格納するときは

ストラップを引きながら、背もたれを前方に倒しロックさせる。

ストラップを引きながら、シート全体を車両後方へ引き上げる。

シートの前側を押し下げてロックさせる。

■ もとにもどすときは

ストラップを引きながら、シート全体を引き上げる。

ストラップを引きながら、シート全体を前方へ押し出し、シート全体を押し下げてロックさせる。

ストラップを引きながら、背もたれを起こしロックさせる。

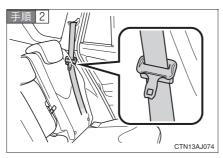
セカンドシートの倒し方

セカンドシートを前倒しすることで、ラゲージスペースを作ることができます。

■ 前に倒すまえに

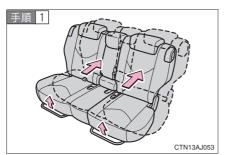
CTN13AJ066

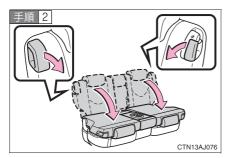
バックルを格納する。

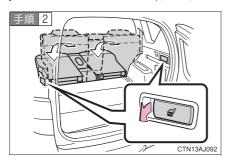
CTN13AJ074

シートベルトをベルトハンガーに挟む。

手順 3 ヘッドレストを一番下まで下げる。(→P. 54)

■ 前に倒すときは

CTN13AJ053

スライドレバーを引き上げながらセカンドシートを一番うしろまで移動させる。

▶ 室内から

リクライニングレバーを引きながら、背もたれを前方に倒す。

▶ ラゲージルームから（サードシート装着車を除く）

セカンドシート遠隔可倒レバーを引きながら、背もたれを前方に倒す。

⚠警告

■背もたれを前に倒すときは

以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中に操作をしない

●平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトポジションをＰにする

●お子さまがラゲージルームに入らないように注意する

■リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。
事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

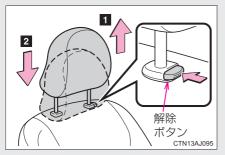
■背もたれをもとの位置にもどした後は

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●背もたれを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する

●シートベルトがシート下に挟み込まれていないか確認する

■ラゲージルームからシートを倒すときは

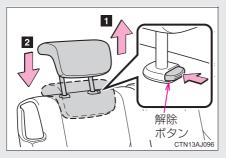
同乗者や荷物がないことを確認して操作してください。同乗者や荷物にシートが当たるなどして同乗者がけがをしたり、荷物を破損したりするおそれがあります。

ヘッドレスト

▶ フロントシート

1 上げる

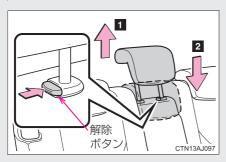
2 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

▶ セカンドシート外側

1 上げる

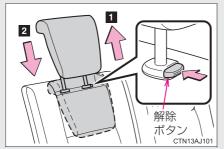
2 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

▶ セカンドシート中央

1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

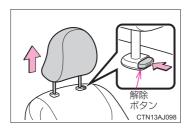
▶ サードシート*

1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

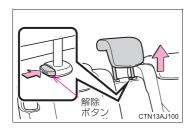
知識

■ヘッドレストの取りはずし

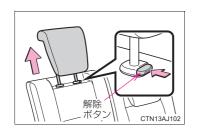
▶ フロントシート

解除ボタンを押しながら取りはずします。

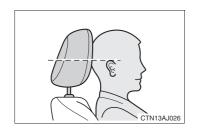
▶ セカンドシート外側

解除ボタンを押しながら取りはずします。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

▶ セカンドシート中央

解除ボタンを押しながら取りはずします。

▶ サードシート*

解除ボタンを押しながら取りはずします。

■ フロントヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上の辺りになるよう調整してください。

■ セカンドシート、サードシートのヘッドレストの使用について

常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■ヘッドレストについて

以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する

●ヘッドレストを正しい位置に調整する

●ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する

●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには

CTN13AJ030

● 肩部ベルトを肩に十分かける

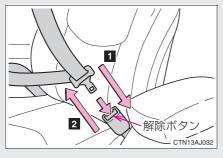
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

● 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる

● 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る

● ねじれが無いようにする

■ 着け方、はずし方

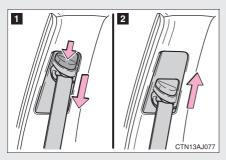
CTN13AJ032

1 固定

“カチッ”と音がするまで差し込みます。

2 解除

解除ボタンを押します。

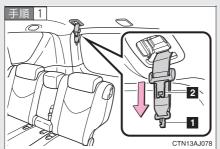
■ シートベルトの高さ調節（フロント席）

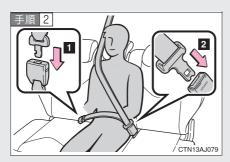
CTN13AJ077

1 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる

2 アジャスターを上げる

“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

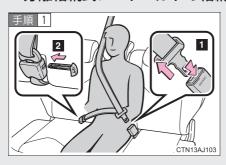
■ 分離格納式シートベルトの着け方

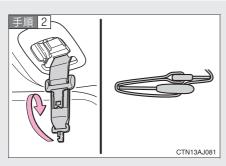
手順 1

1 プレート A
2 プレート B
シートベルトを引き出す。

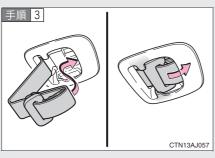
手順 2

1 プレート A を取り付ける
2 プレート B を取り付ける

“カチッ”と音がするまで差し込みます。

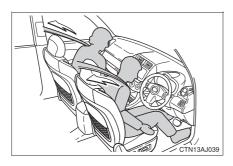
■ 分離格納式シートベルトの格納のしかた

手順 1

1 バックルの解除ボタンを押す。
2 メカニカルキーをバックルに挿し込む。

メカニカルキー (→P. 22)

シートベルトを折り畳む。

プレートＡとプレートＢを重ねるようにしてベルトを折り畳んでください。

シートベルトを格納する。

ツメの部分に確実におさまっていることを確認してください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席）

前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

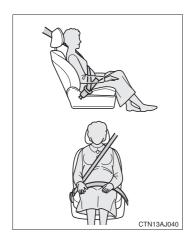
前方からの衝撃が弱いときや、横や後ろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

知識

■緊急時シートベルト固定機構

急ブレーキや衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■妊娠中の女性や疾患のある方の場合

CTN13AJ040

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P. 58)
妊娠中のかたも、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまのシートベルトの使い方

車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 106)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたにしたがってください。(→P. 58)

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 車に乗るときは全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一つにつき一人で使用する
  お子さまでも一つのベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤシートに座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さない
  上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■お子さまをのせるときは

お子さまをシートベルトであそばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルも外せない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

警告

■シートベルトの損傷・故障について

●ベルトやプレート、バックル等は、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。

●シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

●プレートがバックルに確実に差し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく差し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。

●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。

●プリテンショナー付きシートベルトの取り付け、取りはずし、分解、廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■プリテンショナー付きシートベルトについて

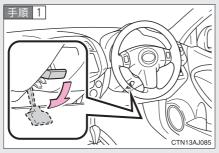
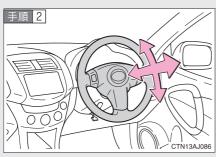
シートベルトプリテンショナーが作動すると SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■分離格納式シートベルトについて

●分離格納式シートベルトを使用するときは、必ずプレートAとバックルを結合してください。結合しない状態で使用すると、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●分離格納式シートベルトを格納するときは、プレートを確実に差し込み、固定してください。正しく格納していないと、走行中にプレートが飛び出し、乗員に当たるなどしてけがをするおそれがあります。

ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。

ハンドルを持ち、レバーを下げる。

ハンドルを前後･上下に動かし、適切な位置にする。

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。

警告

■走行中の警告

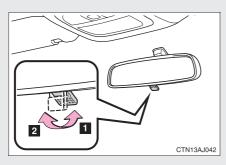
走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは

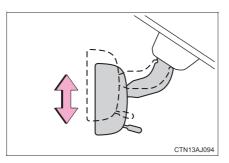
ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

インナーミラー

後続車のライトがまぶしいときは、レバーを操作して反射光を減少（防眩）できます。

CTN13AJ042

1 通常使用時
2 防眩時

上下調整のしかた

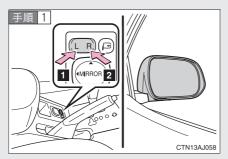
CTN13AJ094

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する。

警告

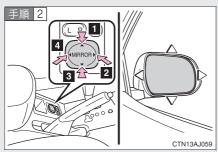
■運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

スイッチで鏡面の角度を調整できます。

ミラーを選ぶ

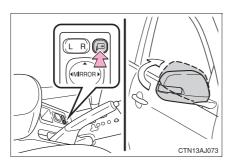
1 左

2 右

スイッチを操作してミラーを上下左右方向に調整する

1 上

2 右

3 下

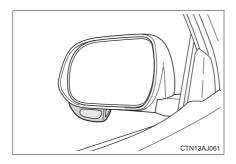
4 左

ドアミラーを格納するときは

ボタンを押してドアミラーを格納する。

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

補助確認装置

補助確認装置が助手席側ドアミラー下部にあります。

知識

■作動条件

“エンジンスタートストップ”スイッチがアクセサリーまたはイグニッションON モードのとき

■ミラーが曇ったときは（ミラーヒーター装着車）

ミラーヒーターを作動させて、曇りを取ることができます。(→P. 185)

■レインクリアリングミラー

鏡面に付着した水滴を膜状に広げる親水効果を持つコーティングを施しており、雨天時における後方視認性を向上させます。
鏡面に汚れなどが付着すると親水効果は一時的に低下しますが、太陽光をあてることにより付着した汚れを化学的に分解し、親水効果を徐々に回復させる機能を持っています。

●次のような場合、親水効果が低下しますが、晴天時に１・２日間太陽光をあてることで親水効果は徐々に回復します。親水効果を早く回復させたいときは回復作業（→P. 226）を行ってください。

・鏡面に、汚れや異物が付着したり、素手でふれたり汚れた布などでふいたとき
・洗車により鏡面に洗剤やワックスが付着したとき
・地下・屋内駐車場などの日のあたらない場所に長時間駐車したとき

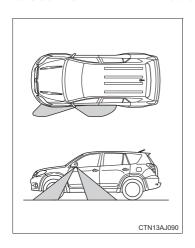
●次のような場合、親水効果が回復できなくなります。十分注意してください。

・鏡面にシリコーン入りのカーメンテナンス商品が付着したとき
・鏡面に傷を付けたとき

■補助確認装置について

●発進時またはごく低速時に左側車両側面を確認するときに役立ちます。

●ミラーの鏡面は固定式ですので鏡面を動かしてミラーの調整をすることはできません。

■補助確認装置に映るおよその範囲

身長やシート位置により、確認できる範囲は異なります。

警告

■走行しているときは

走行中は以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤り思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ミラーを格納したまま走らない
  必ず走行前に運転席側および助手席側のミラーを復帰して、正しく調整する

■ミラーヒーターが作動しているときは

鏡面が熱くなるので触れないでください。

注意

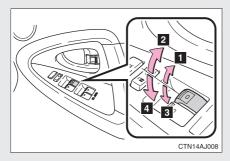
■補助確認装置について

- 補助確認装置の鏡面部に汚れなどが付着しているときは、やわらかい布などを使用してよごれを拭き取ってください。そのままにしておくと視界のさまたげとなるおそれがあります。
- 車両の前後確認は直接確認するか、インナーミラー、ドアミラーなども併用して十分行ってください。

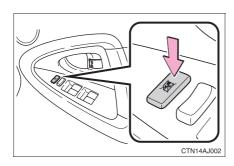
■レインクリアリングミラーの取り扱いについて

- 鏡面が凍結したときは、温水をかけるか、ミラーヒーターを作動させる（ミラーヒーター装着車のみ）などして解氷してください。
  親水膜の効果を持続させるため、鏡面の凍結部分はプラスチックの板などで削り落とさないでください。
- シリコーン入りの撥水剤や油膜取り剤、ワックス、その他のカーメンテナンス商品を使用する場合は、鏡面に付着させないよう十分注意してください。
- 砂の付いた布・油膜取り剤・研磨剤など、鏡面を傷付けるものでこすらないでください。

パワーウインドウ

スイッチでドアガラスを開閉できます。

1 閉める
2 自動全閉※
3 開ける
4 自動全開※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ロックスイッチ

スイッチを押して運転席以外のドアガラスを作動不可にする

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

知識

■作動条件

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■“エンジンスタートストップ”スイッチ OFF 後の作動

“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にした後でも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、その間に運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスの間に異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■パワーウインドウを閉めることができないときは

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることができないドアのパワーウインドウスイッチで、下記の操作を行ってください。

●車を停止し、“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ONモードの状態で、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。

手順 1 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを6秒間引き続ける

手順 2 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを2秒押し続ける

手順 3 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを2秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■ ドアガラスを開閉するときは

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

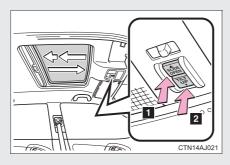
- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだり巻きこんだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などをださないよう声かけをしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
  ドアガラスに挟まれたり巻きこまれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

ムーンルーフ＊

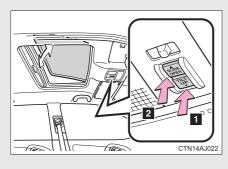
頭上のスイッチでムーンルーフを開閉およびチルトアップ / ダウンできます。

■ 開閉

1 開く※

全開手前位置で止まります。全開にしたいときは、スイッチをもう一度押してください。

2 閉まる※

※ 途中で止めるには、スイッチを軽く押します。

■ チルトアップ / ダウン

1 チルトアップ※

2 チルトダウン※

※ 途中で止めるには、スイッチを軽く押します。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■作動条件

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■“エンジンスタートストップ”スイッチ OFF 後の作動

“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にした後でも、約 45 秒間操作できます。ただし、その間に運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■風切音の低減

自動で開けたときに停止する位置（全開手前位置）で走行すると、風切音を低減できます。

■サンシェード

手動で開閉できます。ただし、ムーンルーフが開くときは連動して開きます。

■ムーンルーフが正常に閉まらないときは

下記の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

手順 1 車を停止する

手順 2 スイッチの“TILT UP”側を押し続ける※1
ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します。※2 その後再び閉じ、チルトアップし、1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

手順 3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手をはなす

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

手順 1 車を停止する

手順 2 スイッチの“TILT UP”側を押し続け※1、ムーンルーフをチルトアップ位置にする

手順 3 スイッチから一度手をはなし、再度“TILT UP”側を押し続ける※1
ムーンルーフがチルトアップの状態で 10 秒間停止し、※2 微調節後 1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

手順 4 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手をはなす

※1 途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。

※2 10秒間停止した後にスイッチから手をはなすと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、スイッチの“TILT UP”側を押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1 秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手を離してください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■ムーンルーフを開けているときは

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するときは

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、骨折など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

CTN14AJ006

CTN14AJ007

- ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手、腕、頭、首を挟んだり巻きこんだりしないように注意してください。
- お子さまには、ムーンルーフの操作をさせないでください。
  ムーンルーフに挟まれたり巻きこまれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■**挟み込み防止機能**

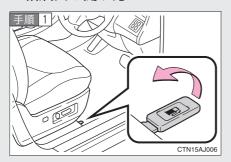
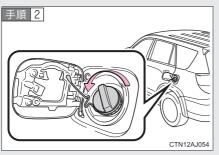
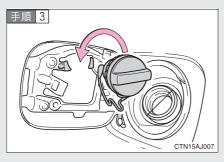
- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

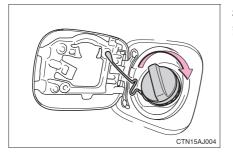
給油口の開け方

以下の手順で給油口を開けてください。

■ 給油する前に

ドアとドアガラスを閉め、“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にしてください。

■ 給油口の開け方

レバーを引く。

キャップをゆっくりまわして開ける。

キャップをハンガーにかける。

給油口のキャップを閉めるときは

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉めます。

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

知識

■燃料の種類

2AZ-FE エンジン車：無鉛レギュラーガソリン

2GR-FE エンジン車：無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）
無鉛レギュラーガソリンをお使いになることもできます。その場合エンジン本来の性能を発揮できません。

■燃料タンク容量（参考値）

60 L

⚠ 警告

■給油について

給油前には以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●車体などの金属部分に触れて身体の静電気を除去する
  放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- ●キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。
  キャップを開けるとき、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。
  ゆっくりと開けないと気温が高いとき、給油口から燃料が吹き返してけがをするおそれがあります。

■給油時の注意

- ●給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。
  ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- ●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。
- ●給油口に、静電気を除去していない人を近付けない
- ●気化した燃料を吸わないようにする
  燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- ●喫煙しない
  引火して火災を引き起こすおそれがあります。
- ●車内にもどったり、帯電している人や物に触れない
  再び帯電する可能性があります。

■キャップ交換時の警告

トヨタ純正以外のキャップを使用しないでください。
純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

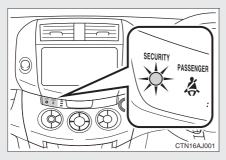
■**給油するときは**

アルコール系燃料、粗悪ガソリン、軽油、灯油を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
以下のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- ノッキングが発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

“エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、“エンジンスタートストップ” スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

●キーが金属性のものに接したり、覆われているとき

●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

正しい運転姿勢

以下の条件にあった正しい姿勢で運転ください。

1 まっすぐ座り、背もたれから背を離さない（→ P. 41）

2 シートをペダルが十分に踏み込めるようなシート位置にする（→ P. 41）

3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする

4 SRS エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→ P. 64）

5 ヘッドレストの中央が耳のいちばん上の辺りになるようにする（→ P. 54）

6 シートベルトが正しく着用できる（→ P. 58）

警告

■走行中は

●走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあり危険です。

●背もたれと背の間にクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあり危険です。

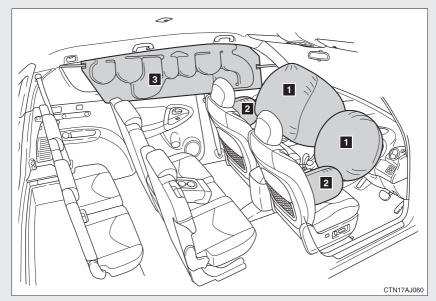
●フロントシートの下に物を置かないでください。
物が挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、調整機構の故障の原因になります。

■シートを調整するときは

●同乗者がシートに当たってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近づけないでください。
指や手を挟み、けがをするおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて乗員への衝撃を緩和させます。

▶ フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

▶ SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ

2 SRS サイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

3 SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とセカンド外側席乗員のおもに頭部への衝撃を緩和）

知識

■SRS エアバッグが展開すると

●SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。

●作動音とともに白いガスが発生します。

●フロント席、フロントピラー、リヤピラーやルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

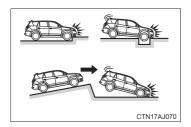
●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、約 20 ～ 30 km/h の速度で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐりこむような衝突（例えば、車両前部がもぐりこむ、下に入り込む、トラックの下敷きになる、など）の場合は、展開車速は設定値より高くなります。

●衝撃の強さが設定値に近い場合での前方からの衝突の場合には、フロント SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーが同時に作動しない場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ）

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が、約 20 ～ 30 km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

■衝突以外で作動するとき

以下のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

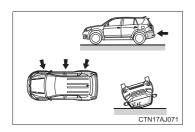
●深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■フューエルポンプシャットオフシステム

エンジン停車時およびSRSエアバッグ作動時はフューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限におさえます。燃料供給の停止を解除するときは、燃料もれがないことを十分確認してから、“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしてからエンジンを始動します。

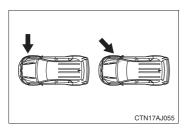
■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

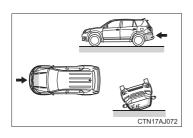
フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃、横転、または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

●後方からの衝突

●横転

■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ）

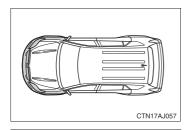
斜めから衝撃を受けた場合や、車内部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

● 客室部分以外の側面への衝撃
● 斜めからの衝撃

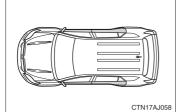
SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃、横転、または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

● 前方からの衝突
● 後方からの衝突
● 横転

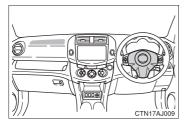
■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

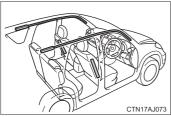
以下のような場合には、できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

CTN17AJ057

●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

CTN17AJ058

●SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

CTN17AJ009

●ハンドルのパッド部分や助手席SRSエアバッグが内蔵されている付近のダッシュボードが傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

CTN17AJ073

●SRS　サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロント・リヤピラー部、ルーフサイド部が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

必ず以下のことをお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
  SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグも強い力でふくらむため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトが使えないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
  お子さまはリヤシートに乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをお勧めいたします。(→P. 106)

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない。

- お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない。
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない。

⚠警告

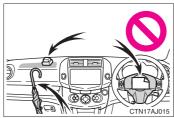
■SRS エアバッグについて

CTN17AJ013

●ドアやフロント・センター・リヤピラー、ルーフサイドレールへ寄りかからない。

CTN17AJ014

●助手席や、外側リヤシートでドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない。

CTN17AJ015

●ダッシュボード、ステアリングパッド部などには何も取り付けたり、置いたりしない。

CTN17AJ016

●ドア、フロントウインドウガラス、サイドガラス、フロントピラー、センターピラー、リヤピラー、ルーフサイドレール、アシストグリップなどには何も取り付けない。(速度制限ラベルを除く →P. 304)

警告

■SRS エアバッグについて

●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。

●コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため触れないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだ後にもし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS　エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

警告

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、以下の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理

●ハンドル、インストルメントパネル、ダッシュボード、シート、シート表皮、フロントピラー、センターピラー、リヤピラー、ルーフサイドレール周辺の修理、取りはずし、改造

●フロントフェンダー、フロントバンパー、車両客室側面部の修理、改造

●グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）、除雪装置、ウィンチなどの取り付け

●サスペンションの改造

●CD プレーヤー、無線機などの電化製品の取り付け

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- お子さまの年齢や体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取りつけ方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0　　：10kgまで
グループ0^{+}　　：13kgまで
グループⅠ　　：9～18kgまで
グループⅡ　　：15～25kgまで
グループⅢ　　：22～36kgまで

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取りつけ器具の記号になります。

▶ ベビーシート

CTN17AJ062

ECE R44 基準のグループ 0、0^+ に相当

▶ チャイルドシート

CTN17AJ063

ECE R44 基準のグループ 0^+、I に相当

▶ ジュニアシート

CTN17AJ064

ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲ に相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取りつけ）

■ サードシート装着車

質量グループ	着席位置（または他の場所）			
	フロントシート	セカンドシート		サードシート
	助手席	左右席	中央席	左右席
0（10kg まで）	x	U	L ※1	L ※2
0^+（13kg まで）	x	U	L ※1	L ※2
Ⅰ（9 ～ 18kg）	前向き UF うしろ向き ×	U	L	X
Ⅱ（15 ～ 25kg）	UF	U	L	L ※3
Ⅲ（22 ～ 36kg）	UF	U	L	L ※3

● 上表に記入する文字の説明

U： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きの子供専用シートに適しています。

L： 子供専用シートのリストに示す特定の子供専用シートに適しています。
（リストに記載があれば「特定自動車」、「限定」「準汎用」カテゴリーの子供専用シートにも適しています。）

X： 子供専用シートを取り付けることはできません。

※１：NEO G-Child ISO tether を使用する場合はヘッドレストを最上段位置にて使用して下さい。

※２：NEO G-Child ISO tether を使用する場合はセカンドシートのスライド位置を最前段にし、シートバックのリクライニング位置を前から０～２段にして下さい。

※３：ヘッドレストを最上段位置にて使用して下さい。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱い説明書もご確認下さい。

子供専用シートのリスト（セカンドシート、サードシート）

質量グループ	子供専用シート	カテゴリー
0（10kg まで）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	汎用
0（10kg まで）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
0^+（13kg まで）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	汎用
0^+（13kg まで）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
Ⅰ（9 ～ 18kg まで）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
Ⅱ（15 ～ 25kg まで）	トヨタ純正 ジュニアシート	汎用
Ⅲ（22 ～ 36kg まで）	トヨタ純正 ジュニアシート	汎用

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談下さい。

■ サードシート装着車を除く

<table>
<tr><th rowspan="3">質量グループ</th><th colspan="3">着席位置（または他の場所）</th></tr>
<tr><th>フロントシート</th><th colspan="2">セカンドシート</th></tr>
<tr><th>助手席</th><th>左右席</th><th>中央席</th></tr>
<tr><td>0（10kg まで）</td><td>x</td><td>U</td><td>L※</td></tr>
<tr><td>0+（13kg まで）</td><td>x</td><td>U</td><td>L※</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Ⅰ（9 ～ 18kg）</td><td>前向き
UF</td><td rowspan="2">U</td><td rowspan="2">L</td></tr>
<tr><td>うしろ向き
×</td></tr>
<tr><td>Ⅱ（15 ～ 25kg）</td><td>UF</td><td>U</td><td>L</td></tr>
<tr><td>Ⅲ（22 ～ 36kg）</td><td>UF</td><td>U</td><td>L</td></tr>
</table>

● 上表に記入する文字の説明

U： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きの子供専用シートに適しています。

L： 子供専用シートのリストに示す特定の子供専用シートに適しています。
（リストに記載があれば「特定自動車」、「限定」「準汎用」カテゴリーの子供専用シートにも適しています。）

X： 子供専用シートを取り付けることはできません。

※： NEO G-Child ISO tether を使用する場合はヘッドレストを最上段位置にて使用して下さい。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱い説明書もご確認下さい。

子供専用シートのリスト（セカンドシート）

質量グループ	子供専用シート	カテゴリー
0（10kg まで）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	汎用
0（10kg まで）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
0^+（13kg まで）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	汎用
0^+（13kg まで）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
Ⅰ（9 ～ 18kg まで）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
Ⅱ（15 ～ 25kg まで）	トヨタ純正 ジュニアシート	汎用
Ⅲ（22 ～ 36kg まで）	トヨタ純正 ジュニアシート	汎用

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談下さい。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表（ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取りつけ）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			セカンドシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	X
	G	ISO/L2	X
0（10kg まで）	E	ISO/R1	IL
0^{+}（13kg まで）	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	X
	C	ISO/R3	X
Ⅰ（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	X
	C	ISO/R3	X
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF
Ⅱ（15 ～ 25kg）		（1）	X
Ⅲ（22 ～ 36kg）		（1）	X

● 上表に記入する文字の説明

（1）：サイズ等級表示（A から G）のない子供専用シートの各シート位置でのISOFIX対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては子供専用シート製造業者または販売業者にご相談下さい。

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL： ISOFIX 子供専用シートのリストに示す「特定自動車」、「限定」、または「準汎用」カテゴリーの子供専用シートに適しています。

X： ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱い説明書もご確認下さい。

ISOFIX 子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0 （10kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 G-Child ISO BABY	準汎用
0+ （13kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 G-Child ISO BABY	準汎用

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談下さい。

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■子供専用シートの選択、使用について

●お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

●体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、セカンドシート、またはサードシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」（→P. 96）を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」（→P. 100）を確認して、適切なシートを選択してください。

手順 1　お子様の体重から、該当する「質量グループ」を確認する

（例１）：体重が 12kg の場合、質量グループは「０＋」になります。

（例２）：体重が 15kg の場合、質量グループは「Ⅰ」になります。

手順 2　サイズ等級を選択する

手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

（例１）：質量グループが「０＋」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

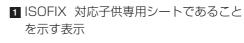
（例２）：質量グループが「Ⅰ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」（→P. 101）で指定されている製品を使用してください。

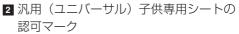
子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

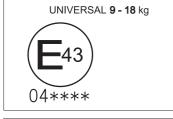
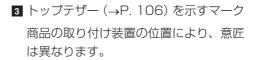
※表示されている位置・記号などは、商品により異なります。

1 ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

サイズ等級が示されています。(表示される文字は、製品により異なります)

手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。

2 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

3 トップテザー (→P. 106) を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

■ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート （B-ISO/F2 と別形状のもの）
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■助手席に子供専用シートを取りつけるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取りつける場合には、助手席シートを以下のように調整し、子供専用シートを前向きに取りつけてください。

●背もたれを直立状態にする

●シートをいちばんうしろに下げる

●シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げる

■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取りつけることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者にお尋ねください。

警告

■子供専用シートを使用しない場合

●子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取りつけた状態にしてください。シートにしっかりと固定されていない状態で客室内に置くことは避けてください。

●子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、荷室内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
取り付け方法は、必ず商品付属の取扱説明書にしたがってください。

CTN17AJ017

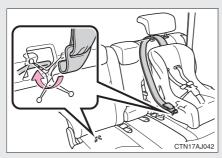
シートベルトによる取り付け
(→P. 107)

CTN17AJ018

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー(→P. 108)

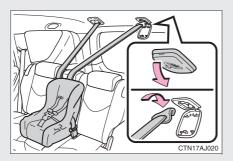
セカンドシートの外側の座席に装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています。)

▶ セカンドシート(外側席)

CTN17AJ042

トップテザーアンカー
(→P. 109)

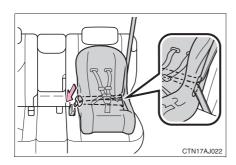
テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはセカンドシートの外側の座席に装備されています。

▶ セカンドシート（中央席）

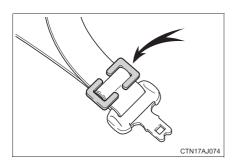
CTN17AJ020

トップテザーアンカー
(→P. 109)

テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはセカンドシートの中央席後方の天井に装備されています。

シートベルトで固定する

CTN17AJ022

チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで差し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱書にしたがい、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

CTN17AJ074

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）

取り付け後はチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

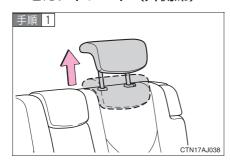
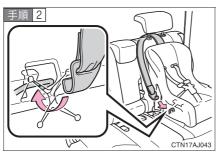
手順 1 リクライニングレバーを引きながら、背もたれの角度を調整する。（→P. 46）

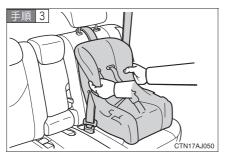
固定専用バーの位置を確認して、チャイルドシートをシートに取り付ける。

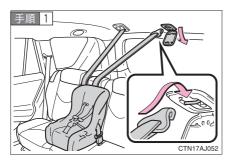
固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、チャイルドシートに付属の取扱い説明書にしたがってください。

トップテザーアンカーで固定する

■ セカンドシート（外側席）

ヘッドレストを上げる。

トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める。

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されているか確認します。

取り付けたチャイルドシートを軽くゆさぶり、固定されていることを確認する。

■ セカンドシート（中央席）

トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める。

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されているか確認します。

取り付けたチャイルドシートを軽くゆさぶり、固定されていることを確認する。

⚠ 警告

■チャイルドシートについて

●事故や急ブレーキの際、効果的に保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートの代わりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、室内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。

●たとえチャイルドシートに座らせていても、ドアやシート、フロントピラー、センターピラー、ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みのうえ、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシートを取り付けるときは

●お子さまをシートベルトであそばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルも外せない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

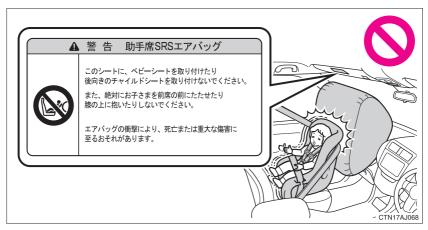
●シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●チャイルドシートを左右に動かして、きちんと固定されているか確認してください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のセカンドシートに取り付けてください。

●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

●助手席にはチャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。あわせてご覧ください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

CTN17AJ036

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばん後ろに下げて取り付けてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に重大な傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。

●ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物が無いか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

●ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取りつけるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。ヘッドレストの上に掛けると、チャイルドシートがしっかり固定されず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートに取りつけるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカーに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。ヘッドレストを下げると、テザーベルトがヘッドレストに当たってたるみ、衝突したときなどにチャイルドシートが動いて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■チャイルドシートを使用しないときは

- 車両にチャイルドシートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください（→ P. 107、108）。チャイルドシートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取り外しが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルーム内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

注意

■トップテザーアンカーについて

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

運転するときに

2

2-1. 運転のしかた

2-2. メーターの見方

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

2-4. その他の走行装置の使い方

2-5. 様々な状況での運転

運転にあたって

安全運転を心がけて、以下の手順で走行ください。

■ エンジンをかける（→P. 126）

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D に入れる。（→P. 130）

手順 2 パーキングブレーキを解除する。（→P. 136）

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足をはなし、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する。

■ 停車する

手順 1 シフトポジションは D のまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける。

長時間停車する場合は、シフトポジションを P または N にする。（→P. 130）

■ 駐車する

手順 1 シフトポジションは D のまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 パーキングブレーキをかける。（→P. 136）

手順 3 シフトレバーを P に入れる。（→P. 130）

坂道の途中で駐車をする場合は必要に応じて、輪止めを使用してください。

手順 4 “エンジンスタートストップ”スイッチを押してエンジンを止める。

手順 5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する。

上り坂の発進のしかた

手順 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D に入れる。

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む。

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する。

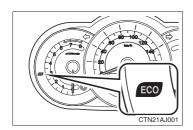
知識

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面の間に水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などをアルミボデー部に取り付けることはできません。

■環境に配慮した運転

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。
必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

次の場合、エコドライブインジケーターランプは作動しません。

- シフトポジションが D 以外のとき
- 車速が約 100 km/h 以上のとき

警告

■発進するときは

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでいてください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するときは

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。

・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすい物の上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが止まり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車内で排気ガス臭に気づいたら、ドアガラスを開け、バックドアが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を起こし事故の原因となるほか、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

●車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

警告

- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを D に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 326を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。
フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。(→P. 130)
- 坂道で止まるときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、ブレーキペダルやパーキングブレーキを使用してください。
- 走行中はハンドル、シート、ドアミラー、インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤り、思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡のおそれがあり危険です。
- 重大な傷害や死亡のおそれがあるので、すべての同乗者が頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- オフロード走行をしないでください。
やむをえずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。

警告

■ **すべりやすい路面を運転するときは**

●急ブレーキ、急加速、急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●シフトアップやシフトダウンによるエンジンブレーキなど、エンジン回転数の急な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ **シフトレバーを操作するときは**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。
シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ **停車するときは**

●空ぶかしをしないでください。
シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●長時間エンジンをかけたままにしないでください。どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

警告

■**駐車するときは**

●車から離れるときは、お子さまを車内に残さないでください。炎天下の車内は大変高温となり、お子さまを残しておくと、熱射病や脱水症状となり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまを残しておくと、マッチ・ライター・発炎筒の火遊びによる車両火災につながるおそれがあり危険です。

●炎天下では、メガネ、スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したままでいると、以下のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・スプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウガラスを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰに入れてエンジンを止め施錠してください。
エンジンがかかっている間は、車から離れないでください。

警告

- エンジン回転中または停止直後はマフラーに触れないでください。
  やけどをするおそれがあります。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
  まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■排気ガスについて

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

- 換気が悪い場所ではエンジンを停止してください。
  とくに車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。
- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気づいた場合は必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■仮眠するときは

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に止めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

警告

■ブレーキをかけるときは

●万一エンジンの停止などによりブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近づいたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。

●万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。
ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。

●ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。一方のブレーキシステムしか作動していない状態で走行しないでください。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したときは（4WD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

■**運転中は**

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。
  運転中、アクセルペダルを踏んでいるときにブレーキペダルを踏むと、駆動力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■**駐車するときは**

必ずシフトポジションを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■**部品の損傷を防ぐために**

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■**きしみやひっかき音が聞こえたら（ブレーキパッドウェアインジケーター）**

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換がおこなわれないと、ローターの損傷につながる場合があります。

ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界を超えて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

注意

■**走行中にタイヤがパンクしたら**

以下のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP. 286 または P. 301 をご覧ください。

■**冠水路走行に関する注意**

大雨などで冠水した道路では、以下のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

●エンストする

●電装品がショートする

●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で以下の点検をしてください。

●ブレーキの効き具合

●エンジン、トランスアクスル、トランスファー（4WD 車）、リヤディファレンシャル（4WD 車）などのオイルやフルードの量および質の変化

●プロペラシャフト（4WD 車）、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

エンジン（イグニッション）スイッチ

■ エンジンのかけ方

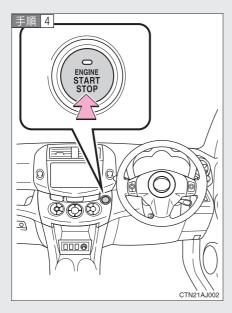
電子キーを携帯して以下の操作をおこなうことで、エンジンの始動または“エンジンスタートストップ”スイッチのモードを切り替えることができます。

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する。

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する。

手順 3 ブレーキペダルをしっかり踏む。

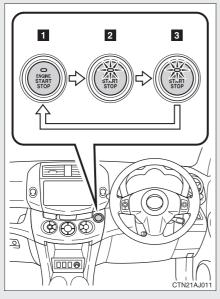
スイッチ上のインジケーターが緑色に点灯します。
緑色に点灯していないとエンジンは始動しません。

手順 4

“エンジンスタートストップ”スイッチを押す。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏みつづけてください。

“エンジンスタートストップ”スイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。

■"エンジンスタートストップ"スイッチのモード切り替え

ブレーキペダルを踏まずに"エンジンスタートストップ"スイッチを押すと、モードを切り替えることができます。(スイッチを押すごとにモードが切り替わります。)

1 OFF ※

非常点滅灯が使用できます。

2 アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

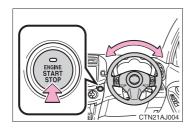
3 イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

※:シフトポジションが P 以外のときは OFF になりません。

知識

■ステアリングロックを解除するには

ステアリングを左右に動かしながら、“エンジンスタートストップ”スイッチを押してください。
ステアリングロックが解除されていないときは、スイッチ上のインジケーターが緑色に点滅します。

■エンジンが始動しないときは

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。
(→P. 82)

■“エンジンスタートストップ”スイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■自動電源 OFF 機能

シフトポジションが P にあるとき、1 時間以上アクセサリーモードにしたままにしておくと、“エンジンスタートストップ”スイッチが自動で OFF になります。

■クランキングホールド機能

エンジン始動操作をしてすぐ手を離すと、エンジンが始動するまでスターターの回転を最大 18 秒間保持します。
“エンジンスタートストップ”スイッチを押したままでも、スターターの回転は最大で約 30 秒間です。約 30 秒経過してもエンジンが始動しない場合は、スターターの回転を停止します。その場合は、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

■電子キーの電池の消耗について

→P. 29

■電子キーの電池が切れたときは

→P. 263

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 28

■ご留意いただきたいこと

→P. 30

警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座っておこなってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、3 秒以上“エンジンスタートストップ”スイッチを押し続けてください。
ただし、緊急時以外は走行中に“エンジンスタートストップ”スイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンがかかっていないときは、“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

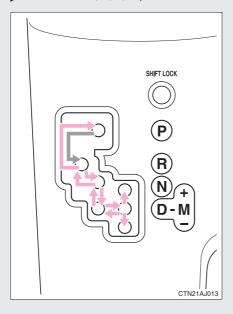
■エンジンを始動するとき

- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、頻繁にエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

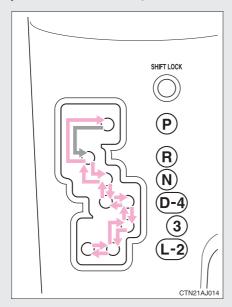
オートマチックトランスミッション

状況に応じてシフトポジションをお選びください。

■ シフトレバーの動かし方

▶ 2AZ-FE エンジン車

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

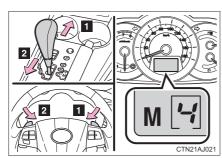
▶ 2GR-FE エンジン車

“エンジンスタートストップ” スイッチがイグニッションONモードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的	
	2AZ-FE エンジン車	2GR-FE エンジン車
P	駐車またはエンジン始動	
R	後退	
N	動力が伝わらない状態	
D	通常走行※（前進）	
M	7 速スポーツ シーケンシャルシフト モード走行（前進） (→P. 133)	
4		通常走行（前進）
3		坂道走行（前進）
2		下り坂走行（前進）
L		急な下り坂走行（前進）

※ D ポジションを使用すると、走行状態に適した変速比・ギア段が選択されます。通常走行時には、D ポジションを使用することをおすすめします。

7 速スポーツシーケンシャルシフトモードでのシフトレンジ切り替え（2AZ-FE エンジン車）

シフトレバーを M ポジションにすると、7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードに切り替わります。シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの操作で思い通りの変速段を選択し、運転することができます。シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの “－” 側または “＋” 側の操作で変速段を選択することができます。

1 シフトアップ

2 シフトダウン

シフトレバーを操作するごとに 1 段ずつ変速します。
1 ～ 7 の間で選択されている変速段がメーターに表示されます。

知識

■ 7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックに関する自動変速について（2AZ-FE エンジン車）

- エンジン回転数が上がりすぎないように自動的に 1 段シフトアップされます。
- エンジン回転数が下がりすぎないように自動的に 1 段シフトダウンされます。

■ シフトダウン制限警告ブザー（2AZ-FE エンジン車）

スポーツシーケンシャルシフトモード走行時には、安全や走行性能を確保するため、シフト操作には制限があり、シフトレバーやパドルシフトスイッチを操作してもシフトできない場合があります。シフト操作によるシフトダウンが行われない場合は警告ブザーが鳴ります。

■ リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■クルーズコントロール*を使って走行しているとき

●2AZ-FE エンジン車：
シフトレバーを D から M へシフトしてもエンジンブレーキは効きません。また、7 速スポーツシーケンシャルシフトモード走行中に M6、M5 または M4 へシフトダウンしてもエンジンブレーキは効きません。（→P. 151）

●2GR-FE エンジン車：
シフトレバーをDから４へシフトダウンしてもエンジンブレーキは効きません。（→P. 151）

■シフトレバーを P からシフトできないときは

→P. 314

■シフトレバーをＭにしても、シフトポジション・シフトレンジ表示灯のＭが点灯しないときは（2AZ-FE エンジン車）

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

この場合、シフトポジションを D にしているときと同じ制御になります。

■NAVI・AI-SHIFT *について（2AZ-FE エンジン車）

ナビゲーションシステムの機能を利用した、高度な自動変速制御の機能です。使用方法は別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

■M ポジションで走行中に停車したときは（2AZ-FE エンジン車）

●停車すると自動的に M1 にシフトダウンされます。

●停止後走行するときは M1 からの発進となります。

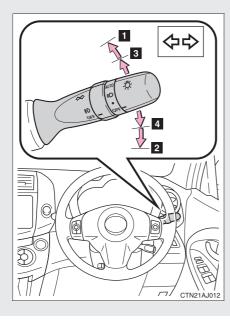
●停止後は M1 に固定されます。

警告

■すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因となりますので注意してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

方向指示レバー

1 左折

2 右折

3 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーをはなすまで左側方向指示灯が点滅します。

4 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーをはなすまで右側方向指示灯が点滅します。

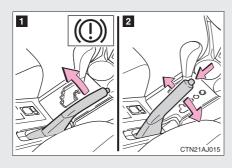
知識

■作動条件

“エンジンスタートストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

1 パーキングブレーキがかかる

ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引きます。

2 パーキングブレーキが解除される

レバーを少し引き上げ、ボタンを押しながら完全に下までもどします。

知識

■冬季のパーキングブレーキの使用について

「寒冷時の運転」（→P. 170）の記載を参照してください。

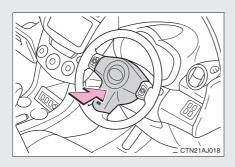
■パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

→P. 281

注意

■走行前の注意

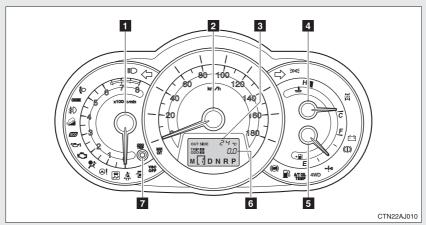
パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ホーン（警音器）

ハンドルの [horn icon] 周辺部を押すとホーンが鳴ります。

知識

■ハンドル位置を調整した後は

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→ P. 64）

計器類

“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードにするとメーターが点灯します。

1 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

2 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

3 外気温度表示

外気温度を表示します。

4 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

5 燃料計

燃料残量を示します。

6 オドメーター、トリップメーター

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

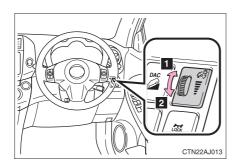
● トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

7 表示切り替えボタン

オドメーター／トリップメーターの切り替えができます。また、トリップメーター表示中に長押しすると走行距離が0にもどります。

メーター照度調整ダイヤル

メーター照明の明るさを調整できます。

1 明るくなる

2 暗くなる

ダイヤルを上いっぱいにまわすと、ライトを点灯してもメーター照明は減光されません。

知識

■外気温表示について

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

●停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき

●外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

■外気温度表示が点滅したとき

走行中外気温度が 3 ℃以下になると、低温度による路面凍結への注意をうながすために外気温度表示が数回点滅します。

⚠注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

●タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数を超えている範囲）に入らないようにしてください。

●水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるのでただちに安全な場所に停車してください。（→P. 322）

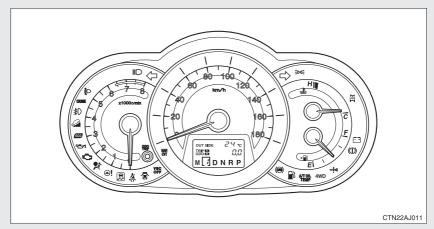
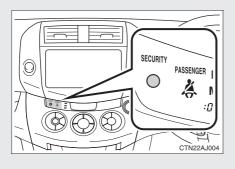
表示灯／警告灯

メーター・センターパネル内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。

▶ メーター

CTN22AJ011

▶ センターパネル

CTN22AJ004

■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯（→P. 135）

尾灯表示灯（→P. 144）

ヘッドライト上向き表示灯（→P. 144）

フロントフォグライト表示灯（→P. 146）

※

ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯（→P. 165）

クルーズコントロール表示灯*（→P. 151）

エンジンイモビライザーシステム表示灯（→P. 82）

※

VSC OFF 表示灯（→P. 158）

NAVI CVT

NAVI CVT 表示灯（2AZ-FE エンジン車）（→ 別冊「ナビゲーションシステム取扱書」参照）

※

（点滅）

スリップ表示灯（→P. 157, 165）

※ ECO

エコドライブインジケーターランプ（→P. 117）

※

4WD LOCK モード表示灯（2GR-FE エンジン車）（→P. 155）

シフトポジション・変速段表示灯（2AZ-FE エンジン車）（→P. 130）

シフトポジション表示灯（2GR-FE エンジン車）（→P. 130）

※作動確認のために“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→P. 281)

※作動確認のために“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

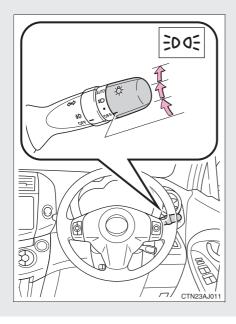
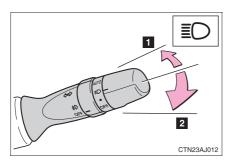
■安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モード にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ライトスイッチ

自動または手動でヘッドライトなどを点灯できます。

●	車幅灯・尾灯・番号灯・メーター照明を点灯
≣D	上記ライトとヘッドライトを点灯
AUTO*	ヘッドライト、車幅灯などを自動点灯・消灯（“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき）

ハイビームにする

1 ライト点灯時、レバーを前方に押しハイビームに切り替え

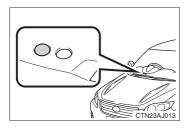
レバーを元の位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いている間、ハイビームを点灯

ライトが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーをはなすと、ロービームにもどるまたは消灯します。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■ライトセンサー*

センサーの上に物を置いたり、センサーをふさぐような物をウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光が遮られると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ライト消し忘れ防止機能

“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにして運転席ドアを開けるとヘッドライトと尾灯が消灯します。

再びライトを点灯する場合は、“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ライトスイッチを OFF に戻し、再度 ● または の位置にします。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

■販売店で設定可能な機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧 →P. 338)

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

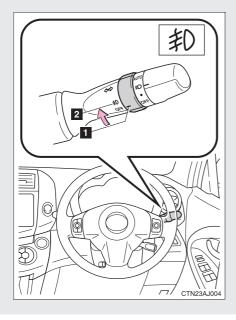
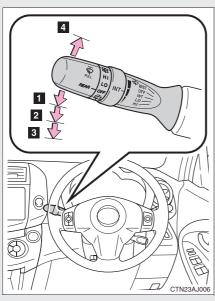
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

フォグライトスイッチ

雨や霧などの悪天候下で視界を確保します。ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているとき使用できます。

1 消灯

2 点灯

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

INTを選択しているとき、間欠作動の時間を調整することができます。

1 間欠作動（INT）

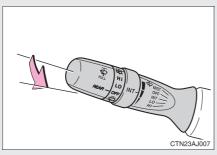
2 低速作動（LO）

3 高速作動（HI）

4 一時作動（MIST）

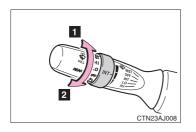
ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

知識

■作動条件

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■間欠時間について

CTN23AJ008

ツマミを回すと間欠作動の時間が調整できます。

1 間欠ワイパーの作動頻度（減）

2 間欠ワイパーの作動頻度（増）

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■窓ガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷つけるおそれがあります。

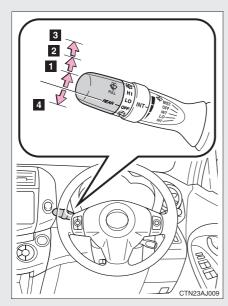
■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作しつづけないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）

1 間欠作動（LO）

2 通常作動（HI）

3 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

4 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

知識

■作動条件

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■窓ガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷つけるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作しつづけないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

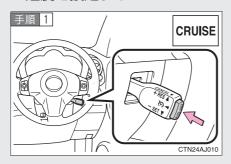
■ノズルがつまったときは

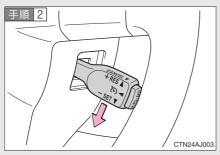
ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

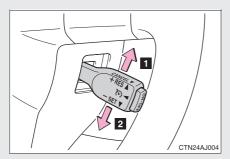
クルーズコントロール*

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。

■ 速度を設定する

ON-OFFスイッチでシステムをONにする

OFFにするには再びスイッチを押します。

希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて設定する

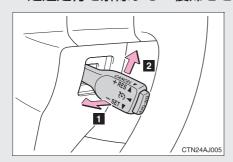
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 設定速度を変える

1 増速

2 減速

希望の速度になるまでレバーを保持します。

レバーを上または下に軽く操作して手をはなせば、設定速度を微調整できます。

■ 定速走行を解除する・復帰させる

1 解除

レバーを手前に引きます。
ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 復帰

レバーを上げると、定速走行に戻ります。

車速が約40km/h以上のとき有効です。

知識

■設定条件について

- シフトポジションが D のとき設定できます。（推奨）
- 2AZ-FE エンジン車：
  7 速スポーツシーケンシャルシフトモードの M7、M6、M5 または M4 のときでも設定できます。
- 2GR-FE エンジン車：
  シフトポジションが4のときでも設定できます。
- 車速は約 40 ～ 100 km/h の範囲で設定できます。

■ 加速について

通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。加速後、設定車速にもどります。

■ コーストブレーキ機能（2GR-FE エンジン車）

●設定速度を減速するときに、レバーを押し下げたまま保持すると、ブレーキ制御が自動的に働きすばやく減速します。
ブレーキ制御中は制動灯およびハイマウントストップライトが点灯しています。

●コーストブレーキ作動中にエンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、これは、ブレーキシステムが作動しているときの音で異常ではありません。

■ 定速走行の自動解除

以下のとき自動的に定速走行が解除されます。

●設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下したとき

●速度が約 40 km/h 以下になったとき

●車が横すべりして S-VSC が作動したとき

■ 定速走行中に表示灯が点滅したときは

ON-OFF スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。
設定できないとき、またはすぐに解除されるときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■**誤操作を防ぐために**

クルーズコントロールを使わないときは ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

■**クルーズコントロールを使用してはいけない状況**

以下の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。
車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害または死亡におよぶおそれがあります。

●交通量の多い道

●急カーブのある道

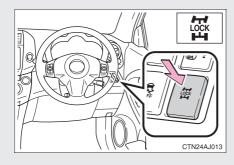
●曲がりくねった道

●雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面

●急な下り坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。

●車両けん引時

4WD LOCK モード（2GR-FE エンジン車）

ぬかるみなどでスタックした場合の脱出時など、大きな駆動力を必要とする走行時に使用します。

スイッチを押す

後輪へのトルク配分が可能なかぎり最大の状態となります。

もう一度押すと解除されます。(→P. 156)

知識

■作動条件

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■4WD LOCK モードについて

●ブレーキ減速時には 4WD を解除し、ABS/S-VSC 制御の効果を高めます。

●車速が 40 km/h 以上になると解除されます。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて以下の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などにより大きなブレーキ力を発生させます。

■ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作やすべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時に駆動輪の空転を抑え、駆動力を確保します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

→P. 162

■ アクティブトルクコントロール 4WD *

通常走行からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などですべりやすい路面など様々な走行状態に応じて、FF（前輪駆動）走行状態から 4WD（4 輪駆動）走行状態まで自動的に制御し、安定した操縦性・安定性を確保します。

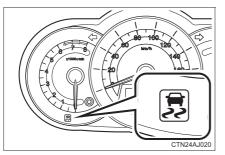
■ ダウンヒルアシストコントロール

→P. 165

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング)

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

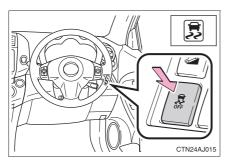
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

S-VSC、TRC が作動しているとき

車両が横すべりしそうになったとき、駆動輪が空転したときは、S-VSC、TRC の作動を表示するためにスリップ表示灯が点滅します。

S-VSC の作動時、ブザー（断続音）が鳴ります。

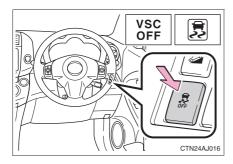
TRC や S-VSC を停止するには

ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC や S-VSC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに、VSC OFF スイッチを押すことにより脱出しやすくなります。

■ TRC を停止するには

TRCを停止するにはスイッチを押します。

スリップ表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

■ TRC と S-VSC を停止するには

TRC と S-VSC を停止するには、停車時にスイッチを押し、3 秒以上保持します。

スリップ表示灯と、VSC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

知識

■ TRC や S-VSC の自動復帰について

TRC や S-VSC を作動停止にしたあと、“エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にすると自動的に TRC と S-VSC は作動可能状態にもどります。

■ TRC OFF の作動制限

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。

■ TRC と S-VSC OFF の作動制限

TRC と S-VSC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

■ TRC、S-VSC のシステム異常について

VSC OFF スイッチを押していない状態で、スリップ表示灯が点灯し、VSC OFF 表示灯が点滅しているときは、システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店に連絡してください。

■ABS、ブレーキアシスト、S-VSC、TRC の作動音と振動

●エンジン始動時や発進直後や、ブレーキを繰り返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、以下のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる
・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作をおこなったとき、モーターの音 (“ウィーン”という音) が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、オーバーヒートを避けるため EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、車を停車し、エンジンを切ってください。10 分程度で元の状態にもどります。

⚠ 警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界を超えたとき

●雨で濡れた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

警告

■**ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき**

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥、砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差を越えたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■**TRC の効果を発揮できないとき**

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の安定性や駆動力を失うような状況では、とくに慎重に運転してください。

■**スリップ表示灯が点滅し、作動警告ブザーが鳴っているときは**

S-VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅し、ブザーが鳴ったらとくに慎重に運転してください。

■**TRC や S-VSC を OFF にするときは**

TRC や S-VSC は自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。
そのため、必要なとき以外は TRC 機能、S-VSC 機能を作動停止状態にしないでください。TRC 機能や S-VSC 機能を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、とくに慎重な運転を心がけてください。

警告

■タイヤを交換するときは

●スペアタイヤ装着車：5 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー、ブランド、トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P. 335）
異なったタイヤを装着すると、アクティブトルクコントロール 4WD、ABS、S-VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

●スペアタイヤ非装着車：4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー、ブランド、トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P. 335）
異なったタイヤを装着すると、アクティブトルクコントロール 4WD、ABS、S-VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

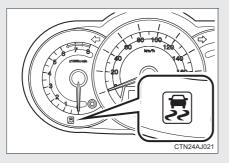
■アクティブトルクコントロール 4WD ＊について

●ラリー走行などが目的ではなく、一般道での走行安定性の確保を目的とした 4WD ですので、無理な運転はしないでください。

●滑りやすい路面での走行は慎重におこなってください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ヒルスタートアシストコントロール

急な上り坂や滑りやすい丘面を発進するときに、車両の後退を緩和し、発進を容易に行うことができます。

車両が完全に停止している状態で、ブレーキペダルを更に踏み込む。

“ピッ”とブザーが鳴り、スリップ表示灯が点滅します。

知識

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件について

以下の状態のときに、ヒルスタートアシストコントロールは作動します。

●シフトレバーが P 以外の位置のとき

●パーキングブレーキがかかっていないとき

●アクセルペダルを踏んでいないとき

●スリップ表示灯が点灯し、VSC OFF 表示灯が点滅しているときは、ヒルスタートアシストコントロールシステムは作動しません。

■ヒルスタートアシストコントロールについて

●ヒルスタートアシストコントロールの作動時間は、ブレーキペダルから足を離して約２秒間です。

●ヒルスタートアシストコントロールが作動しているときは、ブレーキペダルから足を離しても自動的にブレーキを保持します。ヒルスタートアシストコントロールが作動しているときは、制動灯とハイマウントストップライトが点灯します。

●ブレーキペダルを踏み込んでもスリップ表示灯が点滅せず、ブザーが鳴らないときは、一度ブレーキペダルを踏む力を弱めてください。（車両が後退しない程度）その後もう一度ブレーキペダルを踏み込んでください。それでも作動しないときは作動条件を確認してください。

■ヒルスタートアシストコントロール制御ブザーについて

●ヒルスタートアシストコントロールが制御可能状態になると“ピッ”とブザーが１回鳴ります。（シフトレバーが R の位置以外）

●ヒルスタートアシストコントロールが作動中に以下の状態になると、制御終了状態になり“ピッピッ”とブザーが２回鳴ります。（シフトレバーが R の位置以外）

・ブレーキペダルから足を離して、約２秒間運転操作が行わなかったとき
・シフトレバーを P の位置にしたとき
・パーキングブレーキをかけたとき
・ブレーキペダルを再度踏み込んだとき

●シフトレバーが R の位置での使用は、ヒルスタートアシストコントロールの制御開始、終了のブザーは鳴らず、スリップ表示灯の点滅、消灯で作動状態をお知らせします。

■作動音について

ヒルスタートアシストコントロールシステム作動中にエンジンルームから作動音が聞こえることがあります。これは、ヒルスタートアシストコントロールシステムが作動しているときの音で異常ではありません。

警告

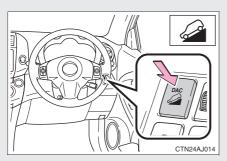
■ **ヒルスタートアシストコントロールについて**

- ●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での長時間の駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ダウンヒルアシストコントロールシステム

ブレーキペダルを操作しなくても、一定の低速度（およそ 5 km/h 前後）で急な下り坂を走行することができます。

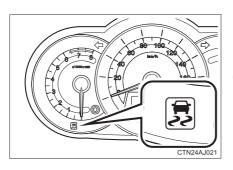
■ ダウンヒルアシストコントロールシステムの使い方

CTN24AJ014

スイッチを押す。

ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯すれば、作動可能状態です。表示灯が点滅しているときは、ダウンヒルアシストコントロールシステムが作動しません。

もう一度スイッチを押すと、システムを徐々に解除します。ダウンヒルアシストコントロール表示灯が点滅し、完全に解除されると消灯します。

ダウンヒルアシストコントロールが作動しているとき

CTN24AJ021

ダウンヒルアシストコントロールシステムが作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。このとき、制動灯とハイマウントストップライトが点灯しています。

知識

■作動条件

●以下の状態のときに、ダウンヒルアシストコントロールシステムは作動可能状態になります。

・シフトポジションが M1、L または R
・アクセルペダル、ブレーキペダルを踏んでいない状態
・低速走行（25 km/h 以下）

●スリップ表示灯が点灯し、VSC OFF 表示灯が点滅しているときは、ダウンヒルアシストコントロールシステムは作動しません。

■作動音について

●ダウンヒルアシストコントロールシステム作動中にエンジンルームから作動音が聞こえることがあります。これは、ダウンヒルアシストコントロールシステムが作動しているときの音で異常ではありません。

●ダウンヒルアシストコントロールシステム作動中にアクセルペダルまたはブレーキペダルを踏むと“ドン”という音が聞こえたり、ペダルが押しもどされることがありますが、異常ではありません。

■ダウンヒルアシストコントロールシステムがひんぱんに作動したとき

ブレーキのアクチュエーターがオーバーヒートする可能性があります。このとき、警告ブザーが継続的に鳴り、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅しダウンヒルアシストコントロールシステムは作動を休止します。ブレーキアクチュエータの温度が下がり、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅から点灯にかわったとき、作動可能状態になります。
（この間、通常走行は可能です）

警告

■ダウンヒルアシストコントロールシステムについて

●ダウンヒルアシストコントロールシステムを過信しないでください。極端に急な坂道、凍結路、泥道ではすべりやすいので、一定の低速度（およそ 5 km/h 前後）を維持できない場合があり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●前進で走行中に、シフトレバーを R に入れたり、後退で走行中に、シフトレバーを D に入れないでください。車輪がロックして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。またオートマチックトランスミッションに無理な力が加わり、故障するおそれがあります。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは以下のことをお守りください。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積む。
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する。
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む。
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする。

警告

■積んではいけないもの

以下のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料がはいった容器
- スプレー缶

■荷物を積むときは

- 以下の場所には荷物を積まないでください。
  お守りいただかないと、ブレーキ・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - 運転席足元
  - 助手席や後席（荷物を積み重ねる場合）
  - インストルメントパネル
  - ダッシュボード
  - ふたのない小物入れ / トレイ
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
  安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷つけるおそれがあります。

警告

●サードシート装着車を除く：トノカバーの上に荷物を置いたり、お子さまを乗せたりしないでください。トノカバーが破損し、荷物が損傷したり、お子さまが生命にかかわる重大な傷害を受けるそれがあり危険です。また、急ブレーキなどで荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●サードシート装着車を除く：ユーティリティネットの上にお子さまを乗せないでください。パイプが折れたり、はずれたりして、お子さまが生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●シートをフラットにした状態で人や荷物をのせて走行しないでください。急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷つけるおそれがあります。

●ラゲージスペースに人を乗せて走行しないでください。急ブレーキや事故の際に、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●荷物を置くときは、セカンドシートの背もたれ上端から荷物がはみ出さないようにしてください。急ブレーキなどで荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。
これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいたうえで適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

● 以下のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

・ エンジンオイル
・ 冷却水
・ ウォッシャー液

● バッテリーの液量・比重を点検してください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を用意してください。

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを用意してください。（タイヤについて：→P. 231）

■ 運転する前に

状況に応じて以下のことをおこなってください。

● ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。

● フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

● 足まわりに氷が付いているときは、氷を取り除いてください。

● フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、控えめな速度で走行してください。

■ 駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、輪止め※をしてください。

※輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

知識

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムでおおってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については以下の指示にしたがってください。

・ 安全に作業できる場所でおこなう
・ 前 2 輪に取り付ける
・ タイヤチェーンに付属の取扱説明書にしたがう
・ 取り付け後 0.5 ～ 1.0 km 走行したら締めなおしをおこなう

警告

■**冬用タイヤ装着時の警告**

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

● 指定サイズのタイヤを使用する

● 空気圧を推奨値に調整する

● お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しない

■**タイヤチェーン装着時の警告**

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

● 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低いほうを越える速度で走行しない

● 路面の凹凸や穴を避ける

● 急ハンドル、急ブレーキを避ける

● カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■**駐車時の警告**

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■タイヤチェーンの使用について

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するときは

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備の使い方

3

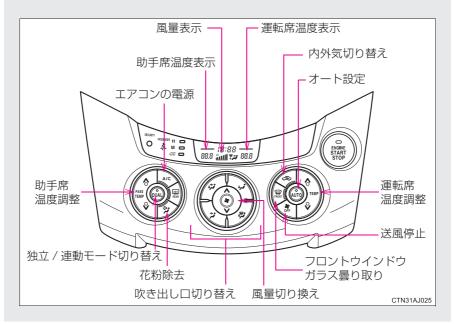
3-1. エアコン・デフォッガーの使い方

3-2. 室内灯のつけ方

3-3. 収納装備の使い方

3-4. その他の室内装備の使い方

オートエアコン

設定温度にあわせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

オート設定を使うとき

■ 連動モード

運転席と助手席の設定温度を同じにします。

  を押す。

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

手順 2 設定温度を上げるときは の∧を、下げるときは∨を押す。

手順 3 を押す。

ボタンを押すたびにエアコンの ON・OFF が切り替わります。

■ 独立モード

運転席と助手席の設定温度を独立してかえることができます。

を押す。

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

手順 2

を押す。

手順 3 設定温度を上げるときは

または

の∧を、下げるときは∨を押す。

手順 4

を押す。

ボタンを押すたびにエアコンの ON・OFF が切り替わります。

お好みの設定で使うとき

■ エアコンの ON・OFF を切り替えるには

を押す。

ボタンを押すたびにエアコンの ON・OFF が切り替わります。

■ 設定温度をかえるには

温度を上げるときは

または

の∧を、下げるときは∨を押す。

を押すと独立モードに切り替わります。

■ 風量をかえるには

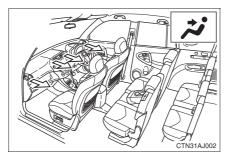
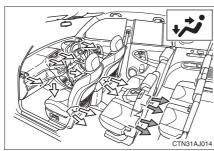
の ∧（増）か ∨（減）を押す。

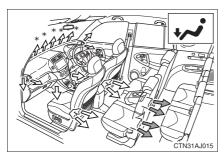
風量は７段階に調整できます。

送風を止めるときは

を押す。

■吹き出し口を切り替えるには

吹き出し口切り替えスイッチで吹き出し口を選択します。吹き出し口表示は以下の状態を示しています。

上半身に送風

上半身と足元に送風

⇦ ：車両型式などで設定の有無あり

：車両型式などで設定の有無あり

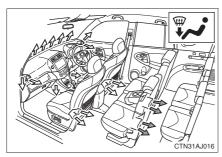
足元に送風

*: 吹き出し口切り替えスイッチの を押してモードを切り替えたときのみ送風されます。

もう一度 を押すと送風を停止します。

“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッションONモードにしたときに、すでに モードが選択されているときは、送風されません。

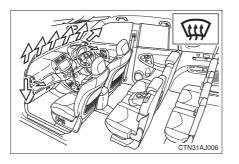
：車両型式などで設定の有無あり

足元に送風・ガラスの曇りを取る

■外気導入・内気循環を切り替えるには

 を押す

ボタンを押すごとに、外気導入と内気循環に切り替わります。内気循環を選択しているときは表示灯が点灯します。

フロントウインドウガラスの曇りを取るには

CTN31AJ006

を押す

エアコンが自動的に ON になります。

花粉除去モードを使うには

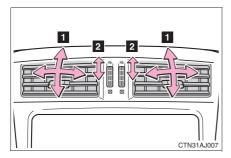
 を押す

内気循環に切り替わり、上半身に送風して花粉を除去します。通常は約３分後に、外気温が低いときは 約１分後に自動的に元のモードにもどります。

途中で作動を解除するときは、もう一度 を押す。

風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ 中央吹き出し口

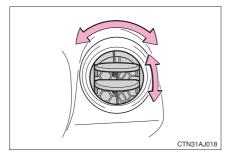
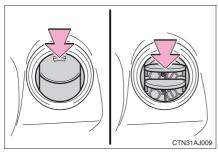
CTN31AJ007

1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

▶ 左右吹き出し口

CTN31AJ018

風向きの調整

CTN31AJ009

吹き出し口の開閉

知識

■オート設定の作動について

以下のような制御をする場合があります。制御を解除したいときは、お好みの設定で使用してください。

● AUTO を押した直後しばらく送風が停止する

●暖房時、冷風を上半身に向けて送る

■内気循環について

●トンネル内や渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を高めたいときに内外気切り替えスイッチを内気循環にすると効果的です。

●長時間、内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■内外気切り替えについて

設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入へ切り替わる場合があります。

■フロントウインドウガラスの曇りを取るとき

内外気の温度によって自動的に外気導入に切り替わる場合があります。

■外気温度が0℃以下のとき

を押してもエアコンが作動しない場合があります。

■花粉除去モードについて

外気温が低いときは、ガラス窓曇り防止のために以下のような作動をすることがあります。

- ●内気循環に切り替わらない
- ●エアコンの電源が自動的に入る

湿度が非常に高いときに使うとガラスが曇る場合があります。

花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

■ A/C の作動表示灯が点滅したときは

システムの異常が考えられますので、安全な場所に車を止めて、いったんエアコンスイッチを OFF にしてから、もう一度 ON にしてください。点滅がさらに続く場合は、スイッチを OFF にしてトヨタ販売店で点検を受けてください。

■エアコンの臭いについて

- ●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- ●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- ●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、

を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り視界を妨げる場合があります。

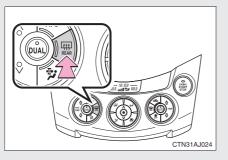
注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止しているときに長時間使用しないでください。

リヤウインドウデフォッガー（曇り取り）

リヤウインドウの曇りを取るときにお使いください。

CTN31AJ024

ON ／ OFF

約 15 分後、自動的に OFF になります。

知識

■ミラーヒーター＊について

リヤウインドウデフォッガーを ON にするとミラーヒーターも同時に作動します。

警告

■作動中の警告（ミラーヒーター装着車）

ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるので触れないでください。

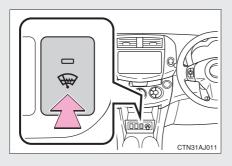
注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止しているときに長時間使用しないでください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

フロントワイパーデアイサー*

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐためにお使いください。

ON ／ OFF

約 15 分後、自動的に OFF になります。

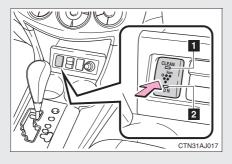
警告

■ **作動中の警告**

フロントウインドウガラス下部および運転席側フロントピラー横の表面が熱くなります。やけどをするおそれがあるので触れないでください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

プラズマクラスター® *

プラズマクラスター® イオンとマイナスイオンを自動的に切り替えて発生させることにより、車室内を清潔に保ちつつ、自然に近いイオンバランスに整えます。

1 作動表示灯（青）

2 作動表示灯（緑）

スイッチを押す

知識

■ **作動条件**

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ **プラズマクラスター® について**

モードは自動で切り替わります。プラズマクラスター® イオンモードのときは青色、マイナスイオンモードのときは緑色の作動表示灯が点灯します。

● 運転席側吹き出し口から放出されます。

● 運転席側吹き出し口付近で静電気を感じたり、小さな作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。

● プラズマクラスター、プラズマクラスターイオンおよび Plasmacluster はシャープ株式会社の商標です。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

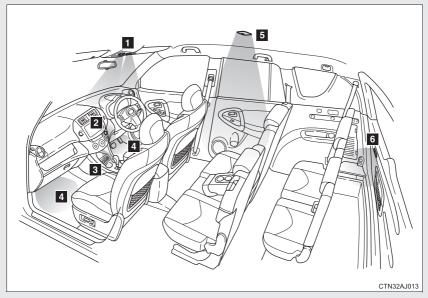
警告

■ **プラズマクラスター® について**

● プラズマクラスター® は、高電圧を利用しています。感電の危険がありますので、修理などは必ずトヨタ販売店にご相談ください。

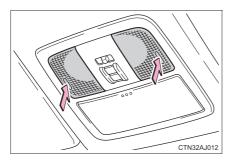
● 運転席側吹き出し口付近にスプレーを噴霧したり、棒などの異物を挿入したりしないでください。故障や感電の原因となります。

室内灯一覧

お車の乗り降りがスムーズにできるように、イルミネーテッドエントリーシステムが付いています。電子キー携帯の有無、ドアの施錠・解錠、ドアの開閉、“エンジンスタートストップ” スイッチの状態によって、各部の照明が点灯・消灯します。

1 パーソナルライト（→P. 190）
2 “エンジンスタートストップ” スイッチ照明
3 カップホルダー照明（ライトスイッチの ON/OFF に連動します。）
4 足元照明
5 インテリアライト（→P. 190）
6 ラゲージルームライト（バックドアの開閉に連動します。）

パーソナルライト

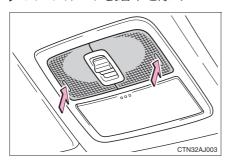
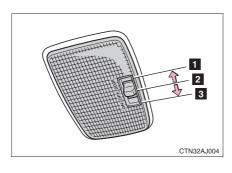
▶ ムーンルーフ装着車

CTN32AJ012

点灯 / 消灯

▶ ムーンルーフ装着車を除く

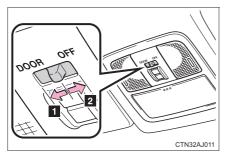
CTN32AJ003

インテリアライト

CTN32AJ004

1 ドアポジション（ドア連動）
2 OFF
3 ON（点灯）

インテリアライトメインスイッチ

▶ ムーンルーフ装着車

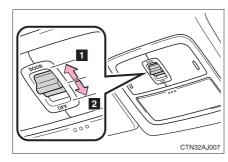
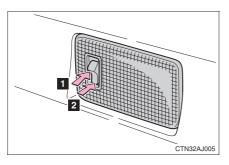
CTN32AJ011

1 ドアポジション（ドア連動）

2 OFF（消灯）

▶ ムーンルーフ装着車を除く

CTN32AJ007

ラゲージルームライト

CTN32AJ005

1 ON（点灯）

2 OFF

知識

■バッテリーあがりを防ぐために

半ドア状態（バックドアを除く）でパーソナルライトとインテリアライトスイッチのドアポジションが ON のときに、各照明が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

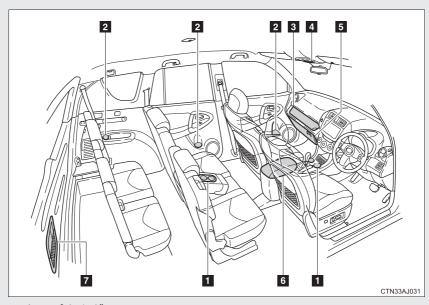
■販売店で設定可能な機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧 →P. 338）

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中にラゲージルームライトを長時間点灯させないでください。

収納装備一覧

1 カップホルダー

2 ボトルホルダー

3 助手席アッパーボックス

4 オーバーヘッドコンソール

5 グローブボックス

6 コンソールボックス

7 バックドアポケット

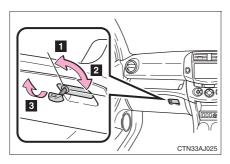
警告

■収納装備に放置してはいけない物

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。

放置したままでいると、以下のようなことが起こるおそれがあり危険です。

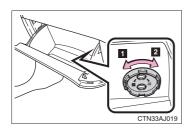
- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れをおこす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス（エアコン送風機能付き）

1 メカニカルキーで解錠

2 メカニカルキーで施錠

3 開ける（レバーを引き上げる）

知識

■エアコン送風機能について

吹き出し口を開閉することで、エアコンの風をグローブボックス内へ送風することができます。

1 閉じる

2 開ける

車室内を暖めるときは、エアコン送風機能を使用しないでください。足元から冷気が出ますので、エアコン送風機能を停止してください。

■入れる物として適さない物

●ふたがされていない容器に入った物

●割れ物、腐る物、匂いが強い物

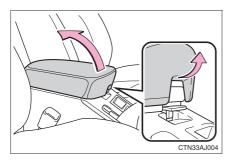
●取扱書、車検証など（エアコン送風機能使用時）

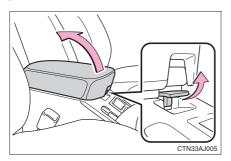
警告

■走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

コンソールボックス

▶ 上段トレイ

ふたを持ち上げる

▶ 下段ボックス

レバーを引きながらふたを持ち上げる

警告

■走行中の警告

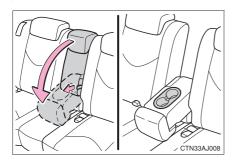
コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

カップホルダー

▶ フロント

CTN33AJ007

▶ セカンドシート

CTN33AJ008

ストラップを手前に引きながらアームレストを引き倒す

警告

■ 収納してはいけない物

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

ボトルホルダー

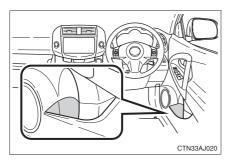
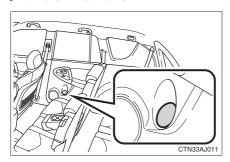
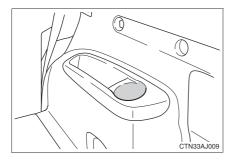
▶ フロントドアポケット

CTN33AJ020

▶ リヤドアポケット

CTN33AJ011

▶ サードシートサイド

CTN33AJ009

知識

■ボトルホルダーについて

ペットボトルの大きさ、形によっては収納できないことがあります。

⚠ 警告

■収納してはいけない物

ボトルホルダーにはペットボトル以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。また、必ずペットボトルのふたを閉めてから収納してください。

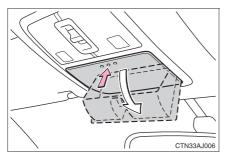
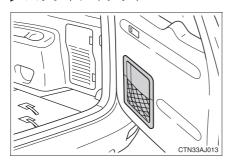
小物入れ

▶ オーバーヘッドコンソール

CTN33AJ006

ボタンを押す

▶ バックドアポケット

CTN33AJ013

警告

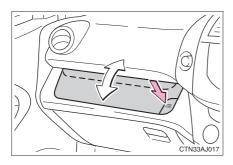
■**走行中の警告**

オーバーヘッドコンソールを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**収納してはいけない物**

●オーバーヘッドコンソールに200g 以上の物を入れないでください。
200g 以上の物を入れると、ふたが開き、収納していた物が飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●バックドアポケットに、鋭利なものや重たいものを入れないでください。破損するおそれがあります。

助手席アッパーボックス

ボタンを押して開閉する

警告

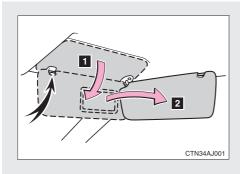
■**走行中の警告**

助手席アッパーボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

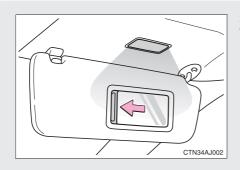
注意

■開閉操作について

急な下り坂では開けにくいことがあります。その場合は、無理に操作せず平坦な場所に移動して操作してください。無理に操作をすると、破損するおそれがあります。

サンバイザー

1 下ろす

2 下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラー

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとライトが点灯します。

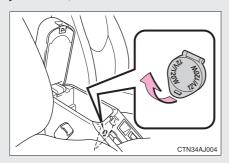
⚠ 注意

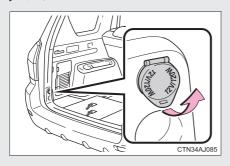
■ **バッテリーあがりを防止するために**

エンジンが停止しているときに長時間ライトを点灯しないでください。

アクセサリーソケット

12V 10A 未満の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

▶ フロント

▶ リヤ

知識

■使用条件

“エンジンスタートストップ”スイッチがアクセサリーまたはイグニッションON モードのとき

⚠ 注意

■ショートや故障を防ぐために

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、ふたを閉めておいてください。

■ヒューズが切れるのを防ぐために

12V 10A を超えないようにしてください。

■バッテリーあがりを防止するために

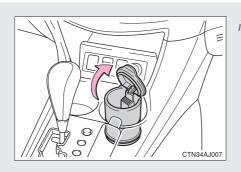
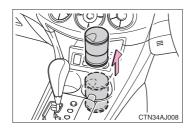
エンジンが停止しているときにアクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

灰皿

CTN34AJ007

ふたを持ち上げる

知識

CTN34AJ008

取りはずして持ち運びできます。

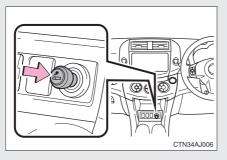
警告

■使用後について

ふたを必ず閉じてください。
走行中の思わぬ事故や急ブレーキにより、けがをするおそれがあります。

■出火を防ぐために

- マッチ、タバコなどの火は完全に消してから灰皿の中に入れ、確実に閉めてください。
- 灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

シガレットライター

シガレットライターを押し込む

もとの位置にもどったら使用できます。

知識

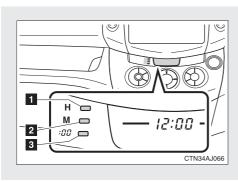
■使用条件

“エンジンスタートストップ”スイッチがアクセサリーまたはイグニッションON モードのとき

警告

■やけどを防ぐために

- シガレットライターの金属部分に触れないでください。
- シガレットライターを押し込んだままにしないでください。
- 備えつけのシガレットライター以外のものを差し込まないでください。
  ソケットが変形し、その後シガレットライターを使用したときにシガレットライターが飛び出したり、押し込まれたまま出てこないおそれがあります。

時計

1 “時” を調整する

2 “分” を調整する

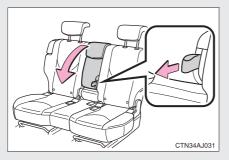
3 “分” を 00 にする※

※（例）1:00 〜 1:29 → 1:00
1:30 〜 1:59 → 2:00

知識

■時刻が表示されるとき

“エンジンスタートストップ” スイッチがアクセサリーまたはイグニッション ON モードのとき

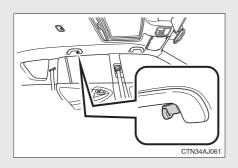
アームレスト

ストラップを手前に引きながらアームレストを手前に倒して使用します。

注意

■アームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

コートフック

リヤのアシストグリップにはコートフックがついています。

警告

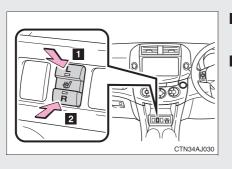
■コートフックへかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

注意

■破損を防ぐために

コートフックに過度の負荷をかけないでください。

シートヒーター*

1 ボタンを押して助手席を暖める

2 ボタンを押して運転席を暖める

インジケーターが点灯します。もう一度ボタンを押すとOFFになります。

知識

■作動条件

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

警告

■やけどについて

●低温やけどを負うおそれがあるため、以下の方はとくにご注意ください。

・乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
・皮膚の弱い方
・疲労の激しい方
・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

●シートに毛布、クッション等を使用しないでください。
シートヒーターの使用により保温性が高まり異常加熱の原因になります。

●シートヒーターを必要以上に使用しないでください。
低温やけどを負ったり、シートヒーターの異常過熱の原因になるおそれがあります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 注意

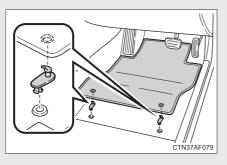
■シートヒーターの故障を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止しているときはスイッチを切ってください。

フロアマット

お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

フロアマット付属の固定フック（クリップ）を使用して固定してください。

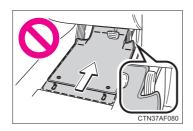
固定フック（クリップ）の形状およびフロアマットの固定方法はイラストと異なる場合があります。詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をご確認ください。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

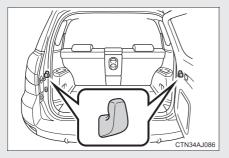
■運転席にフロアマットを敷くときは

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトポジションが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

ラゲージルーム内装備

■ 買い物フック

CTN34AJ086

買い物袋などを吊り下げておくことができます。

■ デッキフック

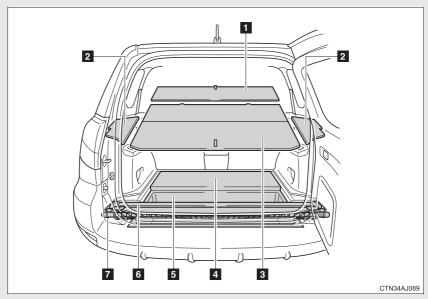
CTN34AJ087

使用するときは、フックを取り出します。

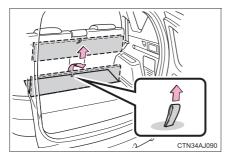
■ ユーティリティフック（サードシート装着車）

CTN34AJ088

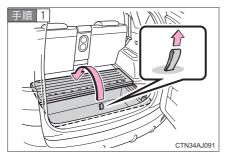
使用するときは、フックを取り出します。

■ デッキアンダートレイ

1 フロントデッキボード*
2 サイドデッキボード
3 リヤデッキボード*
4 フロントデッキアンダートレイ*
5 リヤデッキアンダートレイ*
6 トノカバー*
7 ユーティリティネット*

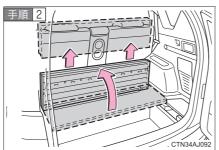
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

フロントデッキボード*

ストラップを持って、起こす。

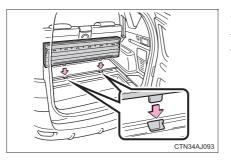
取りはずすこともできます。

リヤデッキボード*（開け方、取りはずし方）

ストラップを持って、起こす。

用途にあわせて2段階で開けることができます。

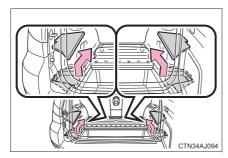
取りはずすこともできます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

リヤデッキボード*（取りつけ方）

CTN34AJ093

デッキアンダートレイのくぼみとデッキボードの凸部を合せて取りつける。

開けたときと逆の手順で取りつける。

サイドデッキボード

CTN34AJ094

リヤデッキボードを開いてから、取りはずす。

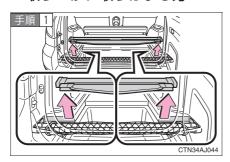
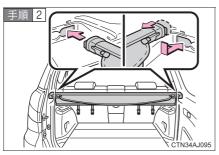
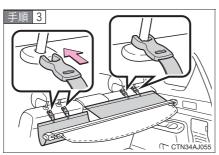
⚠ 警告

■走行中の警告

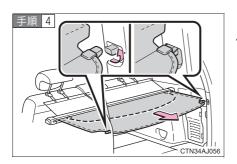
デッキボードを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

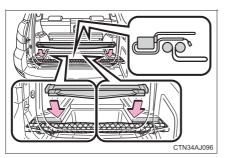
トノカバー*

■取りつけ、取りはずし方

リヤデッキボードを開けてサイドデッキボードを取りはずし、トノカバー本体を取りだす。

トノカバー左側を取りつけ、トノカバーを左側へ押しながら右側を取りつける。

クリップをヘッドレストに取りつける。

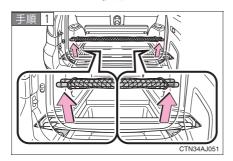
クリップが取りつけられる位置までセカンドシートを倒してください。(→P. 46)

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

トノカバーを引き出し、カバー両側のフックを車両後方の左右の取りつけ部に差し込む。

もとにもどすときは、逆の手順でおこないます。

■ 収納の仕方

リヤデッキボードを開けてサイドデッキボードを取りはずし、トノカバーを収納する。

ユーティリティネット*

■ハンモック状態にするには

リヤデッキボードを開けてサイドデッキボードを取りはずし、ユーティリティネットを取りだす。

パイプの左側を取りつけ、パイプを左側へ押しながら右側を取りつける。

もとにもどすときは、逆の手順でおこないます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 荷物のずり落ち防止状態にするには

CTN34AJ051

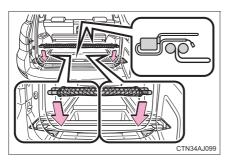
リヤデッキボードを開けてサイドデッキボードを取りはずし、ユーティリティネットを取りだす。

CTN34AJ098

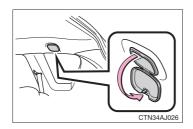
パイプの左側を取りつけ、パイプを左側へ押しながら右側を取りつける。

もとにもどすときは、逆の手順でおこないます。

■ 収納の仕方

CTN34AJ099

リヤデッキボードを開けてサイドデッキボードを取りはずし、ユーティリティネットを収納する。

知識

■パーティションネットホルダーについて

ラゲージルーム上部にあるホルダーは販売店オプションのパーティションネット用です。パーティションネットの取り扱いについては、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■デッキフックを使用しないときは

必ず元の位置にもどしておいてください。

指を挟むなどして思わぬけがをするおそれがあります。

注意

■ユーティリティネットについて（サードシート装着車を除く）

とくに重たいものや大きなものを置かないでください。
パイプが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

最大荷重：10 kg

■買い物フックについて

とくに重たいものや大きなものをフックに吊り下げないでください。
フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

最大荷重：4 kg

■ユーティリティフックについて（サードシート装着車）

とくに重たいものや大きなものをフックに吊り下げないでください。
フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

最大荷重：30 kg

お手入れのしかた　4

外装の手入れ

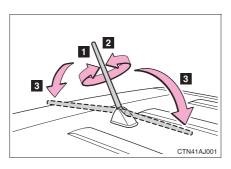
お手入れは、以下の項目を実施ください。

- 水を十分かけながら車体、足まわり、下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす。
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗う。
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す。
- 水をふき取る。
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけをおこなう。

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。（およそ体温以下を目安としてください。）

なお、ボデーコート、ホイールコート、ガラスコートなどトヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

アンテナの取り扱いについて

アンテナは取りはずしたり格納することができます。

1 取りはずす

2 取りつける

3 格納する

ラジオ受信時は、節度感のあるところまで立てて使用してください。

知識

■自動洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納し、アンテナを取りはずした状態にして、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずアンテナをもとどおりに取りつけて、ドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷がつき、塗装を損なうことがあります。
- リヤスポイラーがひっかかり、洗車できない場合や、傷ついたりするおそれがあります。

■高圧洗車機を使うときは

- 室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近づけすぎないでください。
- 洗車の前に給油口がしっかり閉まっていることを確認してください。
- バックカメラやバックカメラ周辺に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。(ナビゲーションシステム装着車)

■アルミホイール

- 中性洗剤を使用し、早めによごれを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- 夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
- 洗剤を使用した後は早めに十分洗い流してください。

■バンパーおよびサイドモールディング

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

●撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

・フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
・汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
・コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
・金属製の道具で霜取りをしない

●水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■レインクリアリングミラーの親水効果回復作業について

鏡面の親水効果は、太陽光をあてることにより徐々に回復します（→P. 67）が、早く回復させたいときは次の作業を行ってください。

手順 1 鏡面に水をかけ、泥汚れなどを洗い流す

手順 2 水を含ませたきれいなやわらかい布などで汚れを落とす

手順 3 ガラスクリーナーか中性洗剤で洗浄後、十分な水で洗剤を洗い流す

手順 4 きれいなやわらかい布などで鏡面に付いた水をふき取る

手順 5 屋外に車両を駐車し、鏡面に太陽光を５時間程度あてる
（汚れの量や種類により、回復時間は異なります）

警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

エンジンがかかっているとき、またはエンジン停止直後、排気管に触れないでください。
高温になっているため、手や足が触れるとやけどをするおそれがあります。

注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合はただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり、泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷がついた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐためによごれを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ライトの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ライトを損傷させるおそれがあります。

●ライトにワックスがけをおこなわないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■アンテナの損傷を防ぐために

以下のようなときはアンテナを格納してください。

●車庫の天井などにアンテナがあたるとき

●カーカバーをかけるとき

■アンテナの取りはずしについて

●通常走行時には、必ずアンテナを取りつけてください。

●洗車時などアンテナを取りはずしたときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずアンテナをもとどおりに取りつけてください。

■ワイパーアームの損傷を防ぐために

ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、元に戻すときは、必ず助手席側から先に戻してください。

内装の手入れ

お手入れは、以下の要領で実施ください。

■ 車内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る。

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤を柔らかい布に含ませ、汚れをふき取る

  ウール用の中性洗剤を約 5% の水溶液まで薄めたものを使用してください。

- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジや柔らかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤をつける
- 数分間そのままにしておいてから汚れを落とし、固く絞ったきれいな布で洗剤をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げます。円を描くように塗りこんでください。水はかけないでください。できるだけ乾いたままにしておくのが最も効果的です。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。シートベルトの擦り切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。(→P. 58)

警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
  電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品やワイヤをぬらさないでください。(→P. 85)
  電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、死亡事故や重傷につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

⚠ 注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・シミ・塗装はがれの原因になるため、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤、染色剤、漂白剤などは使用しないでください。

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みをさけるために

革の部分の損傷・消耗をさけるために、以下のことをお守りください。

●革についたほこりや砂はすぐに取り除く。

●直射日光に長時間さらさないようにする。特に夏場は日陰で車を保管する。

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革にはりつくおそれがあるため、革張りの上に置かない。

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線を引っかいたり、損傷させないように気をつけてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務づけられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000 km ごとにおこなってください。

■ タイヤの点検項目

タイヤは以下の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」をお読みください。

● タイヤ空気圧

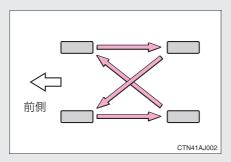
空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

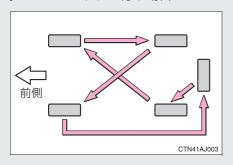
● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションの仕方

▶ スペアタイヤが無い場合

図で示すとおりにタイヤをローテーションしてください。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命を延ばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションを推奨します。

▶ スペアタイヤが有る場合

図で示すとおりにタイヤをローテーションしてください。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命を延ばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションを推奨します。

知識

■ タイヤ空気圧の数値

225/65R17 101S：220 kPa (2.2 kg/cm^2)

235/55R18 99H：220 kPa (2.2 kg/cm^2)

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■**点検、交換時の警告**

必ず以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、死亡事故や負傷につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用してください。
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しないでください。
- ラジアルタイヤ、バイアスベルテッドタイヤ、バイアスタイヤを混在使用しないでください。
- サマータイヤ、オールシーズンタイヤ、冬用タイヤを混在使用しないでください。

■**タイヤサイズの変更について**

新車時に装着されているタイヤサイズによってホイールサイズやステアリングギヤレシオ※が異なるため、装着されているタイヤサイズ以外のタイヤを装着しないでください。サイズの異なるタイヤやホイールを装着した場合に車両の安定性が十分に確保できなくなるおそれがあり危険です。
例えば 225/65R17 タイヤ装着車に 235/55R18 タイヤを装着することはできません。

※ハンドルを操作した量に対してタイヤが切れる角度

■**異常があるタイヤの使用禁止**

異常があるタイヤをそのまま装着していると走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、以下の事態になり、思わぬ事故になるおそれがあります。

- 破裂などの修理できない損傷をあたえる
- 車が横すべりする
- 車の本来の性能（燃費、車両の安定性、制動距離など）が発揮されない

警告

■**タイヤ交換時の注意**

●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。
テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。
オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

注意

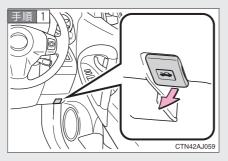
■**走行中に空気漏れが起こったら**

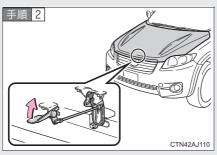
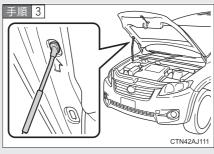
走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■**悪路走行に対する注意**

凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下するおそれがあります。
また、タイヤ、ホイール、車体などの部品も損傷するおそれがあります。

ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

ボンネットオープナーを引く。

ボンネットが少し浮き上がります。

レバーを引き上げてボンネットを開ける。

ボンネットステーをステー穴に差し込む。

知識

■バッテリー端子をはずすときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときはトヨタ販売店にご相談ください。

警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認ください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、死亡事故や重大な傷害につながるおそれがあります。

■エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認ください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを開けるときは

長時間走行したあとにボンネットを開けるときは、ボンネットステーの樹脂部分を持ってステー穴に差し込んでください。樹脂部分以外を持つと、ステーが熱くなっているため、やけどをするおそれがあります。

■ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ボンネットステーをステー穴に差し込んだあとは

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく差し込まれているか確認してください。

注意

■ **ボンネットの損傷を防ぐために**

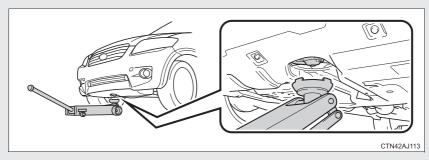
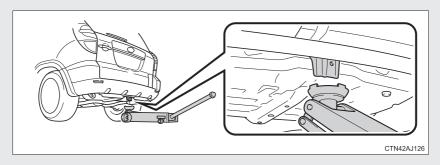
- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットを高い位置から勢いよく閉めないでください。

■ **ボンネットを閉めるときは**

ボンネットステーをステー穴から取り外し、クリップに正しくもどしてください。ボンネットステーが差し込まれた状態で閉めると、ボンネットが損傷するおそれがあります。

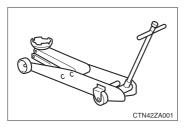
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用してお車を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキを取り付けてください。
正しい位置に取り付けないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

■ フロント側

■ リヤ側

警告

■**車両を持ち上げる時には**

死亡または重大な傷害の危険性を低下させるために、以下のことをお守りください。

CTN42ZA001

●図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げてください。

●ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用する。

●車に搭載されているジャッキを使用しないでください。車両が落下するおそれがあります。

●ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしないでください。

●ガレージジャッキおよび、自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。

●車の下にもぐりこんで作業する場合はジャッキスタンドを使用してください。

●車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しないでください。

●平らで硬い地面に車両を停車させ、しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰに入れてください。

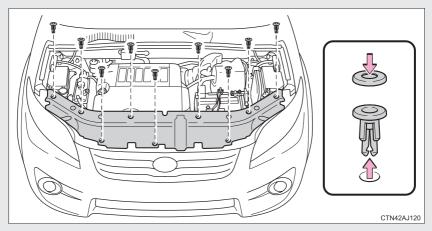
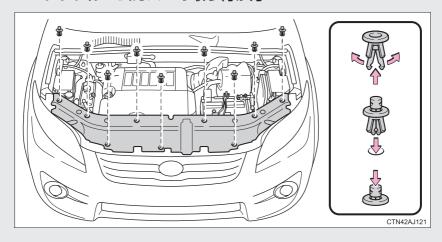
●ガレージジャッキは、必ずジャッキポイントに正しく取り付けてください。ガレージジャッキを正しく取り付けずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。また車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。

●車内に乗員がいるときは車両を持ち上げないでください。

●車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上下に物を置かないでください。

エンジンルームカバー

電球（バルブ）の点検・交換などをおこなうときに取りはずします。

■ エンジンルームカバーの取りはずし方

■ エンジンルームカバーの取り付け方

警告

■けがを防ぐために

カバーを取りはずす前に、“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれてけがをするおそれがあります。

注意

■カバーを取り付けたあとは

もとの場所に確実に取り付けられていることを確認ください。

電球（バルブ）の交換

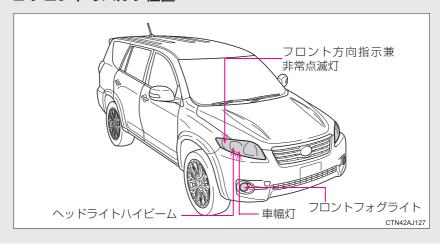
以下に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

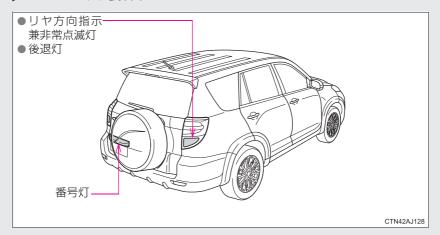
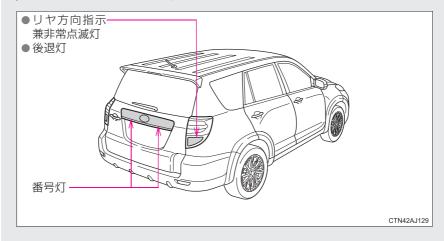
■ 電球の用意

切れた電球のW数を確かめてください。(→P. 336)

■ エンジンルームカバーの取りはずし

→P. 240

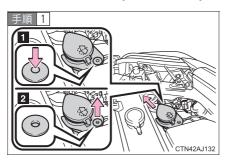
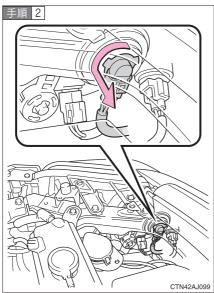
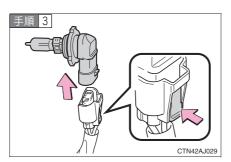
■ フロントのバルブ位置

■ リヤのバルブ位置

▶ スペアタイヤ装着車

▶ スペアタイヤ装着車を除く

電球交換のしかた

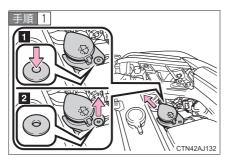
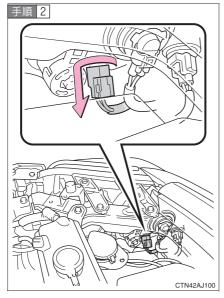
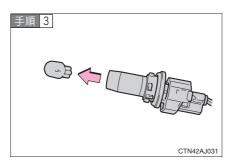
■ ヘッドライト（ハイビーム）

手順 1

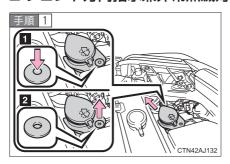
クリップをはずしウォッシャー液補給口の位置を移動する。

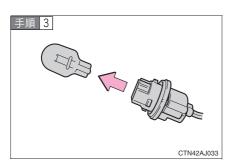
手順 2

ソケットを取りはずす。

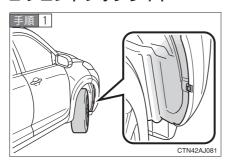
電球を取りはずす。

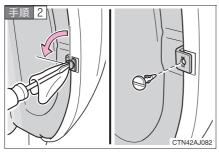
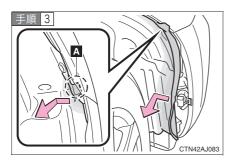
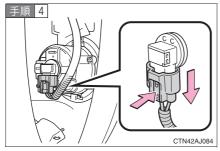
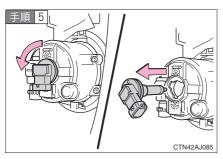
■ 車幅灯

クリップをはずしウォッシャー液補給口の位置を移動する。

ソケットを取りはずす。

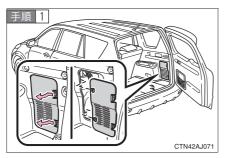
電球を取りはずす。

■ フロント方向指示兼非常点滅灯

クリップをはずしウォッシャー液補給口の位置を移動する。

ソケットを取りはずす。

電球を取りはずす。

■ フロントフォグライト

交換するライトの反対側へハンドルを回し、タイヤの向きをかえる。

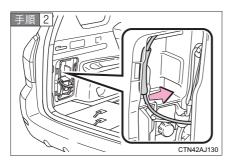
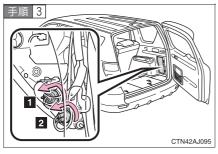
右側を交換するときは左へ、左側を交換するときは右へハンドルを回します。

クリップをはずす。

A 部を車両内側へ押しフェンダーライナーをフェンダーからはずし、フロントフォグライトのコネクターが見える位置までフェンダーライナーをめくる。

コネクターを引き抜く。

電球を取りはずす。

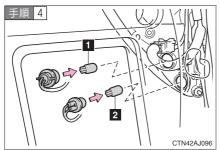
■ 後退灯、リヤ方向指示兼非常点滅灯

バックドアを開け、カバーを取りはずす。

▶ 右側

工具とジャッキを取り出す。（→P. 287）

▶ 左側

応急修理キットを取り出す。（→P. 302）

左側のみ：給油口オープナーケーブルをツメから取りはずす。

ソケットを取りはずす。

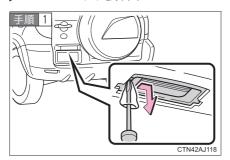
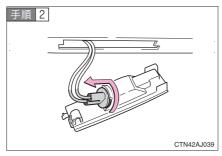
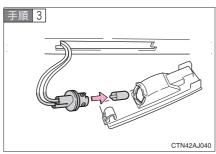
1 リヤ方向指示兼非常点滅灯

2 後退灯

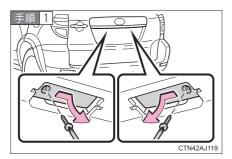
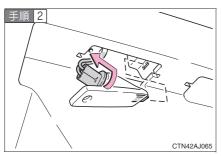
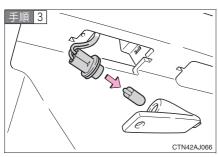
電球を取りはずす。

1 リヤ方向指示兼非常点滅灯

2 後退灯

■ 番号灯

▶ スペアタイヤ装着車

カバーを取りはずす。

ソケットを取りはずす。

電球を取りはずす。

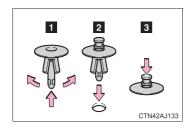
▶ スペアタイヤ装着車を除く

カバーを取りはずす。

ソケットを取りはずす。

電球を取りはずす。

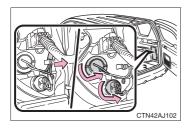
■ その他の電球

以下の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドライトロービーム
- サイド方向指示灯兼非常点滅灯
- ハイマウントストップライト
- 制動灯＆尾灯

知識

■クリップの取り付けかた

取りはずしたクリップを取り付けるときは、クリップを左図のように取り付けてください。

■後退灯、リヤ方向指示兼非常点滅灯がはずしづらいときは

カバーをはずした後、ツメから配線をはずしてから、ソケットを取りはずします。

■レンズ内の水滴と曇り

以下のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- ●レンズ内側に大粒の水滴がついている
- ●ライト内に水がたまっている

■ディスチャージヘッドライトの作動

作動電圧範囲をはずれると、ライトが消灯したり、点灯しなくなります。
電圧が正常に戻ると再点灯します。

■電球の交換について

電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配なかたは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■電球を交換するときは

●ライトは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。
やけどすることがあります。

●電球のガラス部を素手で触れないでください。
プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷つけたり、落下させたりすると球切れしたり破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、もしくはヘッドライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

●電球、ソケット、電気回路、および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電による重大な傷害の原因となります。

■ディスチャージヘッドライトについて

●交換するとき（電球交換含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●点灯中は、高電圧ソケットに触れないでください。
瞬間的に 2 万ボルトの電圧が発生するため、感電による重傷の原因となることがあります。

注意

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認ください。

■LED 制動灯・ハイマウントストップライト・サイド方向指示灯兼非常点滅灯・尾灯について

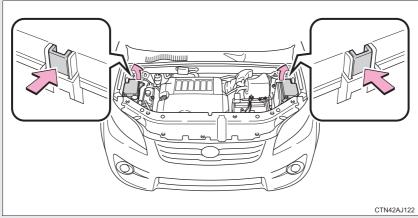
制動灯、ハイマウントストップライト、サイド方向指示灯兼非常点滅灯と尾灯は数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも不灯になったときは、トヨタ販売店で交換してください。

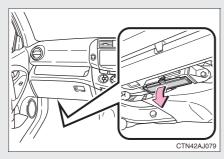
ヒューズの点検、交換

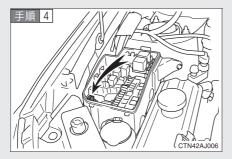
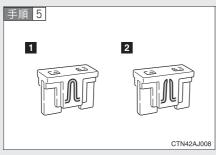
ライトがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検をおこなってください。

手順 1 “エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にする。

手順 2 ヒューズボックスを開ける。

▶ エンジンルーム

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる。

▶ 助手席足元

ヒューズボックスカバーを取りはずす。

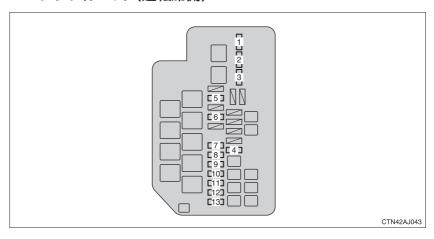
手順 3 故障の状況から、点検すべきヒューズを確認する。
(→P. 257)

ヒューズはずしでヒューズを引き抜く。

ヒューズが切れていないか点検する。

1 正常

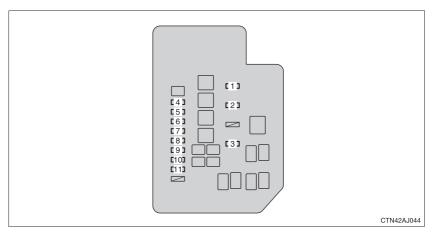
2 ヒューズ切れ

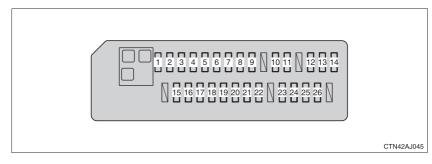
ヒューズボックスの表示にしたがい、規定容量のヒューズに交換します。

ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム（運転席側）

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	SPARE	30 A	予備ヒューズ
2	SPARE	20 A	予備ヒューズ
3	SPARE	10 A	予備ヒューズ
4	DEICER	20 A	熱線入りフロントウインドウシールドガラス
5	ECU-B2	7.5 A	エアコンシステム、スマートエントリー&スタートシステム、パワーウインドウシステム
6	STR LOCK	20 A	電子制御ステアリングロック
7	RAD NO.1	20 A	ナビゲーションシステム
8	ECU-B	10 A	ボデー ECU、メーター、時計、ヒーターコントロールパネル、スマートエントリー&スタートシステム、バックガイドモニターシステム、S-VSC システム、4WD システム、ステアリングシステム

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
9	DOME	10 A	イルミネーテッドエントリーシステム、バニティライト、室内灯、ラゲージルームライト
10	HEAD LH	10 A	ヘッドライト（左）ハイビーム
11	HEAD RH	10 A	ヘッドライト（右）ハイビーム
12	HEAD LL	15 A	ヘッドライト（左）ロービーム
13	HEAD RL	15 A	ヘッドライト（右）ロービーム

■ エンジンルーム（助手席側）

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	EFI MAIN	20 A	EFI コンピュータ
2	HORN	10 A	ホーン
3	A/F	20 A	A/F センサー
4	AMP	30 A	—
5	AM2	30 A	スターター
6	IG2	15 A	インジェクター、イグナイタ
7	HAZ	10 A	非常点滅灯
8	ETCS	10 A	EFI コンピュータ
9	AM2-2	7.5 A	メインボデー ECU
10	EFI NO.1	10 A	EFI コンピュータ
11	EFI NO.2	10 A	EFI コンピュータ

■ 助手席足元

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	TAIL	10 A	尾灯、ヘッドライトオートレベリングシステム
2	PANEL	7.5 A	スイッチ照明、エアコン照明、ダウンヒルアシストコントロールシステム、シートヒーター、4WD システム、メーター、サイドカメラ、フロントワイパーデアイサー、ステアリングシステム
3	GAUGE1	10 A	後退灯、オルタネーター
4	P FR DOOR	20 A	助手席側前席パワーウインドウ
5	RL DOOR	20 A	助手席側後席パワーウインドウ
6	RR DOOR	20 A	運転席側後席パワーウインドウ
7	S/ROOF	25 A	ムーンルーフ
8	CIG	15 A	シガレットライター
9	ACC	7.5 A	電動格納式ドアミラー、シフトロックシステム、バックガイドモニターシステム、アクセサリーソケット、メインボデー ECU、スマートエントリー&スタートシステム、ヒーターコントロールパネル
10	MIR HTR	10 A	ミラーヒーター
11	PWR OUTLET	15 A	アクセサリーソケット

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
12	RR FOG	10 A	—
13	IGN	7.5 A	EFI コンピューター、エアバッグコンピューター、スマートエントリー&スタートシステム、CAN 通信システム、制動灯、ステアリングロック、始動システム
14	GAUGE2	7.5 A	メーター
15	S-HTR	15 A	シートヒーター
16	WIP	25 A	ワイパー
17	RR WIP	15 A	リヤワイパー
18	WSH	15 A	ウォッシャー
19	ECU-IG1	10 A	ABS、S-VSC、4WD、電動パワーステアリング
20	ECU-IG2	10 A	エアコン
21	OBD	7.5 A	ダイアグノーシスコネクター
22	STOP	10 A	制動灯、S-VSC システム
23	DOOR	25 A	メインボデー ECU
24	ACC-B	25 A	ACC リレー
25	4WD	7.5 A	4WD コンピューター
26	FR FOG	15 A	フロントフォグライト

知識

■ヒューズを交換したあと

●交換してもライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P. 242)

●取り替えても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR1632

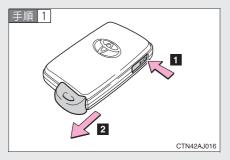
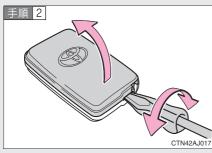
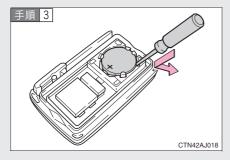
■ 電池交換のしかた

CTN42AJ016

メカニカルキーを抜く。

CTN42AJ017

カバーをはずす。

CTN42AJ018

消耗した電池を取り出す。

新しい電池は + 極を上にして取り付けます。

知識

■電子キーの電池が消耗していると

以下のような状態が起こります。

●スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

■リチウム電池 CR1632 の入手

電池はトヨタ販売店、時計店およびカメラ店などで購入できます。

警告

■取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■交換後、正常に機能させるために

以下のことを必ずお守りください。

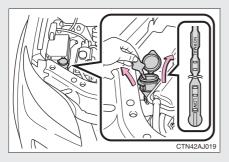
●濡れた手で電池を交換しない
錆の原因になります。

●電池以外の部品に、触れたり動かしたりしない

●電極を曲げない

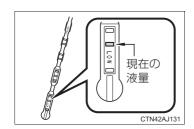
●ドライバーにテーピングをしたり布きれをあててからはずしてください。
カバーに傷がつくおそれがあります。

ウォッシャー液の補給

CTN42AJ019

液面がLOWの位置に近づいたらウォッシャー液を補給してください。

知識

■ゲージの使い方

CTN42AJ131

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。
残量がゲージの先端から２つめの穴部より下まわった（ＬＯＷ の位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補給してください。

■リヤワイパーのウォッシャー液の補給について

リヤワイパー用ウォッシャータンクはフロントワイパー用と兼用です。

警告

■ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。
車体の塗装にしみがつくおそれがあります。

■ウォッシャー液の薄め方

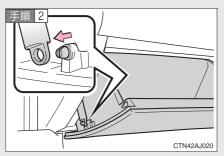
必要に応じて水で薄めてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

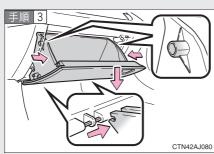
エアコンフィルター

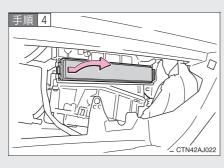
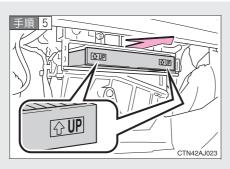
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に清掃、または交換してください。

■ 交換のしかた

手順 1 “エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にする。

CTN42AJ020

手順 2 グローブボックスを開きダンパーステーのピンをはずす。

CTN42AJ080

手順 3 グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、下部のツメをはずして取りはずす。

CTN42AJ022

手順 4 フィルターカバーを取りはずす。

フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する。

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

知識

■エアコンフィルターの清掃・交換について

エアコンフィルターは以下の時期を目安に清掃、または交換してください。

清掃：15,000km [7,500km※] ごと
交換：30,000km [15,000km※] ごと

※大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを清掃、または交換してください。

なお、フィルターの清掃については、トヨタ販売店にご相談ください。

注意

■エアコンを使用するときの注意

フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因となることがあります。必ずフィルターを装着してください。

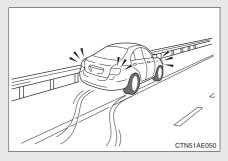
トラブルが起きたら 5

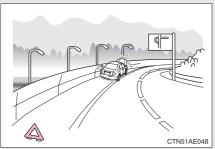
5-1. まず初めに

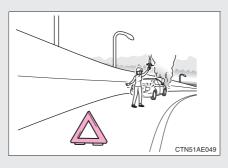
5-2. 緊急時の対処法

故障したときは

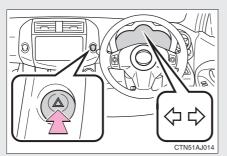
故障のときは速やかに下記の指示に従ってください。

CTN51AE050

非常点滅灯を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。(→P. 271)
非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

CTN51AE048

高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。(法的にも義務付けられています。)

CTN51AE049

緊急を要するときは発炎筒で合図します。(→P. 272)

非常点滅灯

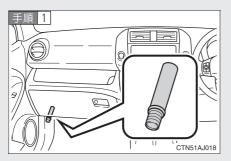
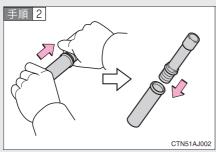
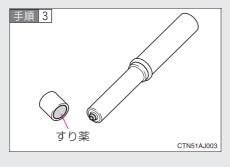
事故や故障のときなどにお使いください。

スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用しないでください。

発炎筒

事故や故障のときなど、緊急時にお使いください。
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してお使いください。

助手席足元の発炎筒を取り出す。

本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして差し込む。

先端のふたを取りはずし、すり薬と発炎筒の先端をこすり、着火させる。

知識

■発炎筒の有効期限

表示してある有効期間がきれる前に、トヨタ販売店でお求めください。

警告

■**発炎筒が使用できない場所**

以下の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

●トンネル内

●ガソリンなど可燃物の近く

■**発炎筒の取り扱いについて**

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近づけたりしない

●発炎筒は、お子さまにさわらせない

けん引について

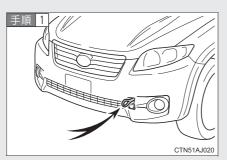
けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

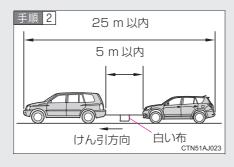
■ けん引される前に

以下の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店へご連絡ください。

- エンジンはかかるが、車が動かない
- 異常な音がする

■ けん引されるときは

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける。

前進方向でけん引してください。

ロープの中央に白い布を付ける。

布の大きさ：

0.3 m 平方（30 cm × 30 cm）以上

手順 3 けん引される車両のエンジンをかける。

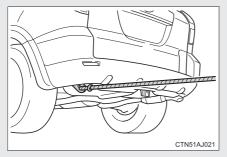
エンジンがかからないときは、“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーまたはイグニッション ON モードにしてください。

手順 4 けん引される車両のシフトレバーを N に入れてから、パーキングブレーキを解除する。

けん引中は、前の車の制動灯に注意しロープをたるませないようにしてください。

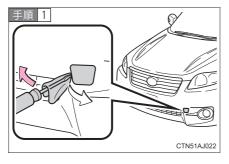
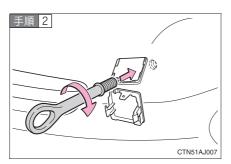
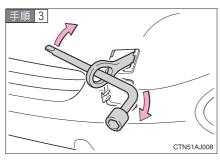
■ けん引するときは

一般路上で故障した他車をやむを得ずロープによりけん引するためのものです。自車より重い車のけん引はできません。

CTN51AJ021

けん引フックは、リヤバンパー下部の助手席側にあります。

けん引フックの取り付け方

手順 1

CTN51AJ022

マイナスドライバーと当て布を使ってふたをはずす。

けん引フックを穴に差しこみ軽く締める。

ホイールナットレンチを使い確実に取り付ける。

知識

■けん引フックの収納位置

→P. 286

警告

■けん引フックを車両に取り付けるときは

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
さもないとけん引時にはずれてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■車両を運搬するときは（4WD 車）

必ず 4 輪接地または、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。
駆動装置が焼き付きを起こしたり、車が台車から飛び出すおそれがあります。
また、駆動系部品が故障したと思われるときは必ず 4 輪を持ち上げて運搬してください。

■けん引中の運転について

- けん引をおこなうときは細心の注意を払ってください。
  けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進やまちがった車両操作は避けてください。
  けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。
- “エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にしないでください。
  ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- けん引される車は、慎重に運転してください。
  エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。

注意

■車両の損傷を防ぐために

●けん引するときは以下のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない
・速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●自車より重い車をけん引しないでください。
駆動系部品、けん引フックや車体などに重大な損傷をあたえるおそれがあります。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持する為のコンピュータを搭載しています。このコンピュータはシステムが正常に作動してることを診断するとともに、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

記録するデータ

エアバッグコンピュータに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに下記のデータを記録します。

- エンジンの回転数
- 車速
- ブレーキペダルの操作状況
- アクセルペダルの操作状況
- オートマチックトランスミッションのシフトポジション
- 運転者および助手席乗員のシートベルト装着の有無
- 運転席のシート位置
- エアバッグ作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは会話などの音声や映像は記録しません。

データの開示について

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行なうなどの使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて以下のようにご対処ください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

以下の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
(!)	**ブレーキ警告灯（警告ブザー）※** ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

※パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
車速が 5km/h を超えると警告ブザーが鳴ります。

ただちに停車してください。

以下の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	充電警告灯 充電系統の異常
	油圧警告灯 エンジンオイルの圧力異常

ただちに点検を受けてください。

以下の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常
ABS	**ABS ＆ブレーキアシスト警告灯** ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
	パワーステアリング警告灯 ・EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常
4WD	**4WD 警告灯＊** ・4WD システムの異常 （点滅したとき →P. 283）
	ディスチャージヘッドライト オートレベリング警告灯 ・自動光軸調整システムの異常
CRUISE （点滅）	**クルーズコントロール表示灯＊** ・クルーズコントロールの異常（→P. 153）
VSC OFF （点滅）	**VSC OFF 表示灯** ・S-VSC システムの異常 ・TRC システムの異常

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告灯	警告灯名・警告内容
	スリップ表示灯 ・S-VSC システムの異常 ・TRC システムの異常

ただちに処置してください。

以下の警告はそれぞれの対処方法にしたがって処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯 いずれかのドアが確実に閉まっていない	全ドアを閉める。
	運転席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー） ※ 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用
PASSENGER	**助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）** ※ 助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用
	燃料残量警告灯 燃料の残量（約 9 L 以下）	燃料を補給

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
4WD（点滅）	**4WD 警告灯*** 駆動系の発熱 （点灯のみのとき →P. 282）	スピードを落として低速走行するまたはエンジンをかけたまま停車する。
A/T OIL TEMP	**オートマチックトランスミッション油温警告灯*** トランスミッションフルードの温度異常	トランスミッションフルードを冷却するために、安全な場所に停車し、シフトレバーを P に入れてエンジンをかけたままにする。 消灯しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

※ **運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のままだと、ブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

ただちに処置してください

それぞれの対処方法にしたがって処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告ブザー		スマートエントリー＆スタートシステム警告灯	警告内容	対処方法
車内	車外			
1 回	なし	（8 秒間点灯）	電子キーを携帯していない状態でエンジンをかけようとした	電子キーを携帯する※

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告ブザー		スマートエントリー&スタートシステム警告灯	警告内容	対処方法
車内	車外			
1 回	3 回		“エンジンスタートストップ”スイッチが OFF になっていないときに、同乗者が電子キーを持ち出してドアを閉めた	電子キーを車内に戻してください
			“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にせずに電子キーを外に持ち出して運転席ドアを閉めた	“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にした後、再度運転席ドアを閉めてください
連続音	連続音		“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードまたはアクセサリーモードのとき、シフトレバーを P 以外に入れたまま電子キーを持ち出して運転席ドアを閉めた	シフトレバーを P に入れ、“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にした後、運転席ドアを閉めてください

※ 電子キーが車内にあってもエンジンが始動しない場合は、電池が切れている可能性があります。(→P. 263)

知識

■助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

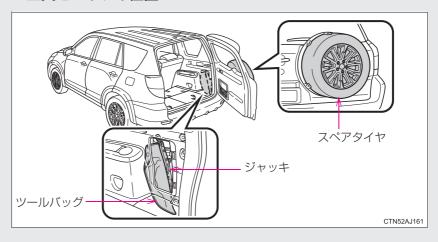
●座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

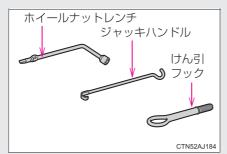
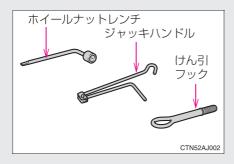
パンクしたときは（スペアタイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。
(タイヤについての詳しい説明は P. 231 をご覧ください。)

■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

- ● 地面が固く平らな場所に移動する
- ● パーキングブレーキをかける
- ● シフトレバーを P に入れる
- ● エンジンを止める
- ● 非常点滅灯を点滅させる

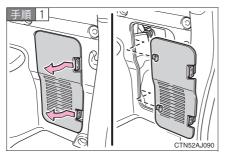
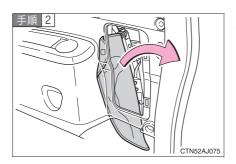
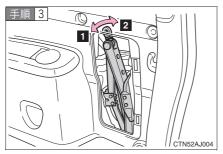
■ 工具とジャッキ位置

■ ツールバッグ

▶ A タイプ

▶ B タイプ

工具とジャッキの取り出し方

カバーを取りはずす。

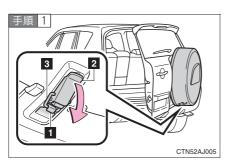
手順 2

工具を取り出す。

手順 3

1 締まる

2 ゆるむ

スペアタイヤの取り出し方

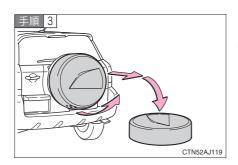
手順 1

1 フック

2 レバー

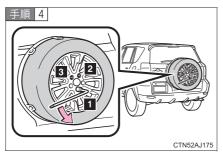
3 金具

バックドアを開けて、スペアタイヤカバー下部にある金具を、レバーを引いてフックからはずす。

手順 2 バックドアを閉める。

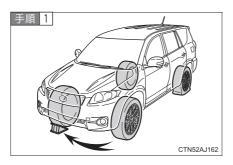
手順 3
CTN52AJ119

スペアタイヤカバーの下側を持ち上げながら後方へずらし、取りはずす。

スペアタイヤカバーを直接地面に置くときは、傷がつかないように表面を上にして置いてください。

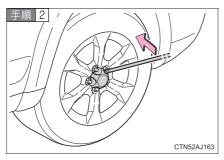
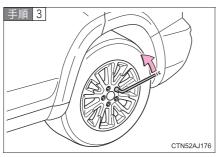
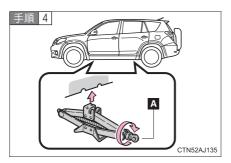
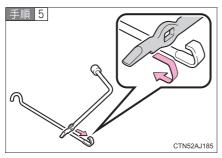
手順 4
CTN52AJ175

ホイールナットレンチを使用して、図の順番でナットを手で少しまわるぐらいまでゆるめる。

手順 5 手でナットをまわして取りはずし、タイヤを取りはずす。

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷がつかないように意匠面を上にして置いてください。

パンクしたタイヤの交換

輪止め※をする。

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪後ろ
	右側	左側後輪後ろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

センターオーナメントをはずす。(17 インチタイヤ装着車)

ナットを少し(約1回転)ゆるめる。

ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける。

A タイプのみ：ホイールナットレンチをジャッキハンドルに組み付ける。

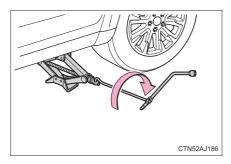
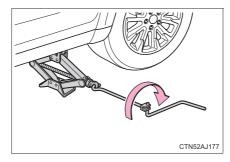
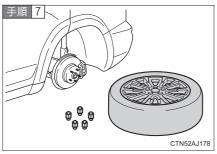
手順 6 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる。

▶ A タイプ

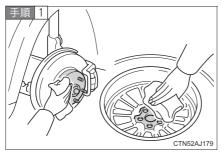
CTN52AJ186

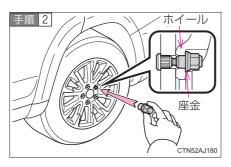
▶ B タイプ

CTN52AJ177

CTN52AJ178

手順 7 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす。

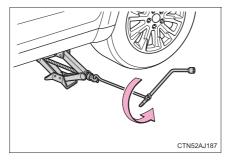
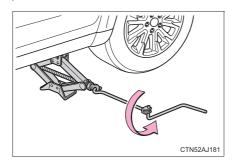
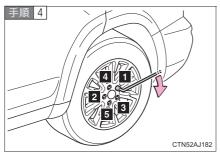
タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷がつかないよう意匠面を上にして置いてください。

タイヤの取り付け

ホイール接触面の汚れをふき取る。

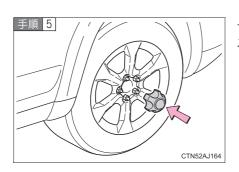
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする。

ナットの座金がホイールに当たるまで仮締めする。

手順 3 車体を下げる。

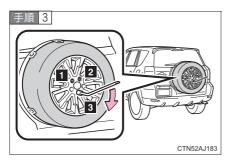
▶ A タイプ

▶ B タイプ

図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける。

締め付けトルク：

103 N・m (1050 kgf・cm)

センターオーナメントを取り付ける。（17 インチタイヤ装着車）

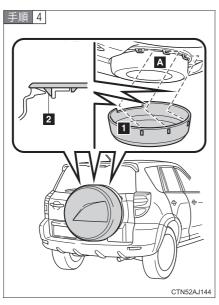
スペアタイヤの取りつけ方

手順 1 スペアタイヤの裏側の接触面の汚れをふき取る。

手順 2 スペアタイヤをバックドアに取りつけ、手でナットをまわして取りつける。

ホイールナットレンチを使用して、図の順番でナットを締めつける。

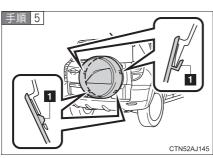
締め付けトルク：

約 90 N・m（900 kgf・cm）

手順 4

1 スペアタイヤカバー

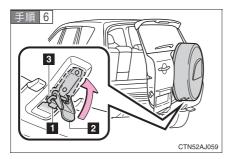
2 ツメ

スペアタイヤカバー上部のA部（3カ所）を目印にして、車体側の穴にカバー内側のツメ（3カ所）をはめ込む。

手順 5

1 ツメ

残りのツメ（4カ所）を車体側の穴にはめ込む。

カバーを軽くゆさぶり、カバーが確実に取りつけられていることを確認してください。

手順 6

1 フック

2 レバー

3 金具

バックドアを開ける。金具をフックに引っかけてからレバーを引いてロックする。

手順 7 すべての工具・ジャッキを収納する。

知識

■スペアタイヤについて

空気圧を必ず点検してください。(→P. 335)

警告

■ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して死亡またはけがにつながるおそれがあります。
以下のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン取り付け、取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使わない
- ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ジャッキで支えられている車の下に身体を入れない
- ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下に物をのせない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐりこんで作業する場合はジャッキスタンドを使用する
- ジャッキを使用するときはしっかりとした傾きのない平坦な床面で行ってください。

車両を下げる際はとくに、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

⚠ 警告

■タイヤ交換について

けがを負う危険を減らすため、以下のことを必ずお守りください。

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。

●タイヤ交換を行うときはしっかりとした傾きのない平坦な床面で行ってください。

●ホイールの交換後はすぐに 103 N・m（1050 kgf・cm）の力でナットを締める

●タイヤの取りつけには、使用しているホイール専用のナットを使用する。

●ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検をうける。

●ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける。（→P. 234）

上記のことを守らないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、死亡や重傷を負う事故につながるおそれがあります。

■スペアタイヤカバーについて

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

●スペアタイヤカバーを取りつけたときは、カバーを軽くゆさぶって確実に固定されていることを確認してください。

●スペアタイヤがない状態のまま、スペアタイヤカバーを取りつけて走行しないでください。

●スペアタイヤカバーの脱着を行うときは平坦な場所で行ってください。

警告

■**スペアタイヤについて**

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

●取りつけ・取りはずしするときは、バックドアを閉めてから行ってください。

●タイヤを足の上などに落とさないように注意してください。

●車両をジャッキアップする前に取りはずしてください。

●タイヤが確実に固定されていることを確認してください。

●必ずスペアタイヤの点検を行い、異常があるスペアタイヤは装着しないでください。

●ホイールナットレンチはホイールナットに十分深くかけてください。

■**センターオーナメントについて（17 インチタイヤ装着車）**

センターオーナメントに直接手をかけて取らないでください。けがをするおそれがあり危険ですので、取り扱いには十分注意してください。

注意

■ **パンクしたままの走行について**

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■ **スペアタイヤカバーについて**

スペアタイヤカバーの金具をはずすときや、ロックするときは必ずバックドアを開けてから行ってください。閉めたまま行うと金具をはずすことやロックすることができず、バンパーに傷がつくおそれがあります。

■ **センターオーナメントを取りはずすときは（17 インチタイヤ装着車）**

ホイールナットレンチ以外は使わないでください。ホイール、センターオーナメントが損傷するおそれがあります。

■ **タイヤ交換について**

ホイールナットレンチをパイプなどを使用して必要以上に締めつけないでください。

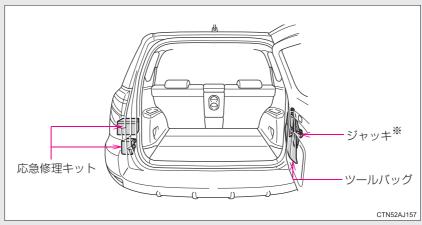
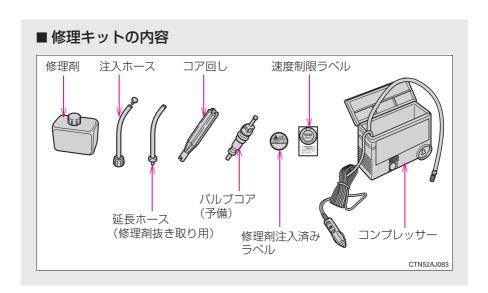
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット付き車）

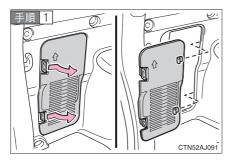
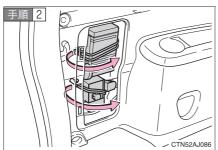
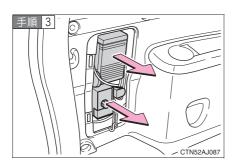
タイヤがパンクしたときにタイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やねじなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（修理剤1本につき、応急修理できるタイヤは1本です。）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

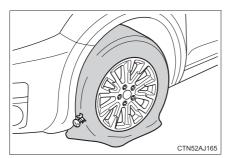
■ 応急修理する前に

- ● 地面が固く平らな場所に移動する
- ● パーキングブレーキをかける
- ● シフトレバーをPに入れる
- ● エンジンを止める
- ● 非常点滅灯を点滅させる

■ タイヤパンク応急修理キット、工具およびジャッキ位置

※：ジャッキの使い方（→P. 287）

■ 修理キットの内容

応急修理キットの取りだし方

カバーを取りはずす。

固定バンドを取りはずす。

応急修理キットを取りだす。

応急修理する前に

応急修理をする前に、タイヤ損傷の程度を確認する。

釘やねじなどが刺さった場合のみタイヤを応急修理してください。

知識

■以下のときは、タイヤパンク応急修理キットの修理剤では応急処置できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

●タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷したとき

●タイヤ側壁の亀裂や損傷によりタイヤがパンクしているとき

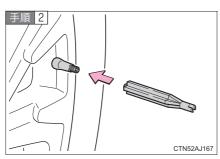
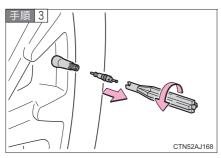
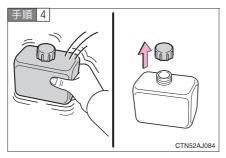
●タイヤがホイールから明らかにはずれているとき

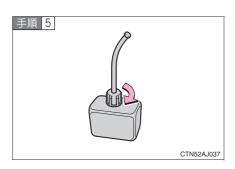
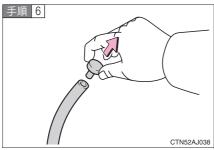
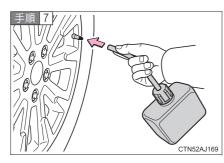
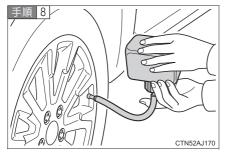
●タイヤ溝に 4 mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき

●ホイールが破損しているとき

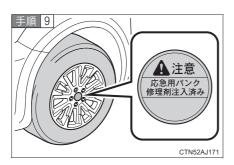
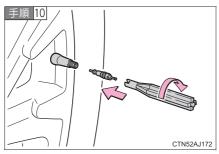
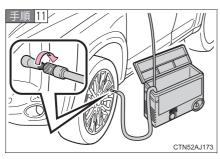
●2 本以上のタイヤがパンクしているとき

応急修理するときは

バルブからバルブキャップを取りはずす。

バルブコア回しの突起部をバルブに押しあて、空気を抜く。

バルブコア回しでバルブコアを反時計回りにまわして抜き取る。

修理剤ボトルを上下に数回振ってからキャップをはずす。

内ぶたをはずさないでください。

注入ホースを修理剤ボトルにねじ込んで接続する。

注入ホースから栓を取りはずす。

注入ホースをバルブに差し込む。

修理剤をタイヤ内に注入する。

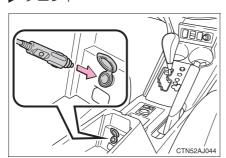
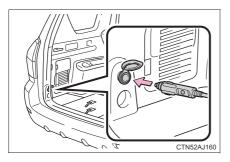
ボトル内の修理剤はすべて注入してください。

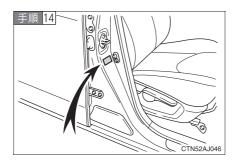
空ボトルは修理剤の抜き取りに使用しますので、トヨタ販売店までお持ちください。

修理剤注入済みラベルを貼る。

バルブから注入ホースを取りはずし、バルブコア回しでバルブコアを時計回りにまわしてバルブにしっかりとねじ込む。

コンプレッサーのホースをバルブにねじ込んで接続する。

手順 12 電源プラグをアクセサリーソケットに差し込む。

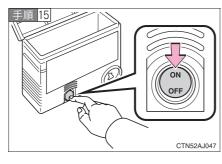
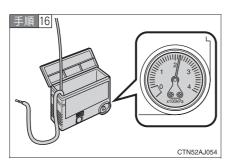
▶ フロント

▶ リヤ

CTN52AJ160

手順 13 “エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーモードにする。

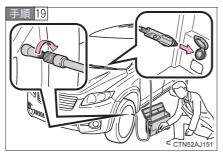
手順 14
CTN52AJ046

タイヤの指定空気圧を確認する。

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。(→P. 232)

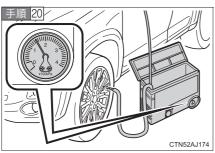
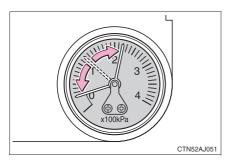
手順 15
CTN52AJ047

コンプレッサーのスイッチを ON にして、指定空気圧まで空気を充填する。

圧力計を確認しながら指定空気圧になったらコンプレッサーのスイッチを OFF にする。

8 分以内に指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

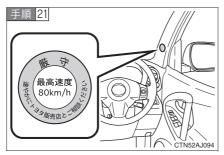
手順 17 バルブからコンプレッサーのホースを取りはずし、アクセサリーソケットから電源プラグを取りはずす。

手順 18 タイヤ内の修理剤を均等に広げるために、直ちに 10 分間または約 5 km 走行する。

走行後、再度コンプレッサーを接続する。

圧力計で空気圧を確認する。

CTN52AJ051

空気圧が 130 kPa以上の場合は、指定空気圧まで空気を充填する。

空気圧が 130 kPa 未満の場合は、応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

CTN52AJ094

速度制限ラベルを車内に貼る。

急ブレーキ、急ハンドルを避け、80km/h 以下で慎重に運転してトヨタ販売店へ行きます。タイヤの修理・交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

知識

■修理剤について

●修理剤 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です。

●外気温度が -30 ℃～ 60 ℃のときに使用できます。

●外気温度が低いときは修理剤の粘度が高くなり、注入作業がしにくくなります。車内等で暖めると注入作業がしやすくなります。

●パンク補修液には有効期限があります。有効期限は容器に表示されています。

●有効期限がきれる前に交換が必要です。トヨタ販売店にご相談ください。

●新しい修理剤の購入にあたってはトヨタ販売店にご相談ください。

●修理剤が衣服に付着するとシミになる場合があります。

■コンプレッサーについて

●コンプレッサーは自動車タイヤの空気充填用です。

●コンプレッサー作動中は大きな音がしますが故障ではありません。

■応急修理後のホイールについて

ホイールに付いた修理剤は柔らかい布などで拭き取ってください。拭き取り後、ホイールはそのまま使用できます。

⚠ 警告

■**修理剤について**

●飲用すると健康に害があります。もし誤って飲用した場合はできるだけたくさんの水を飲み、直ちに医師の診察を受けてください。

●もし目に入ったり、皮膚に付いたりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

●お子様が誤って手を触れないようご注意ください。

■**パンクしたタイヤを応急修理するときは**

●車両を安全で平坦な場所に停止させる。

●空気がタイヤに残っている状態でバルブコア回しを使用すると、バルブコアが飛び出すおそれがあります。

●注入ホースを取り付けた状態でボトルを振ると、修理剤が飛び出すおそれがあります。

●注入ホースがしっかりとバルブに取り付けられていないと、充填時に修理剤が漏れ出すおそれがあります。

●タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続する。

●コンプレッサーが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。

■**修理剤を均等に広げるための運転について**

低速で慎重に運転してください。とくにカーブや旋回時には注意してください。

⚠注意

■タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。

■応急修理をするときは

- タイヤ溝に刺さった釘やねじを取り除かずに応急修理をおこなってください。取り除いてしまうと、タイヤパンク応急修理キットの修理剤では応急修理ができなくなる場合があります。
- バルブコアを汚れた地面や砂地に置かないでください。
- 修理剤の内ぶたを取りはずさないでください。
- バルブコア回しをねじ込むときは手で回してください。工具を使用したりすると、破損するおそれがあります。
- コンプレッサーは１０分以上連続して使用しないでください。モーターが過熱して、損傷するおそれがあります。

■コンプレッサーについて

- コンプレッサーは DC12V 専用です。ほかの電源での使用はできません。
- コンプレッサーはオイルレスタイプです。潤滑オイルなどを使用しないでください。
- コンプレッサーの作動中に、動作が鈍くなったり、本体が熱くなった場合はオーバーヒート状態になっています。このような場合は、直ちにスイッチを OFF にして、３０分以上放置してください。
- コンプレッサーに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂埃の多い場所に直接置いて使用しないでください。砂埃などを吸い込むと、故障の原因になります。
- 分解、改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 126）にしたがっても、またステアリングロックを解除（→P. 128）してもエンジンがかからないときは、以下のことをご確認ください。

■ スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

以下の原因が考えられます。

● 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。

● 燃料を吸いこみすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→P. 126）にしたがって、エンジンをかけてください。

● エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P. 82）

■ スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

● バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 318）

● バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ スターターがまわらない／室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

● バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。

● バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 318）

● ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

処置の方法がわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

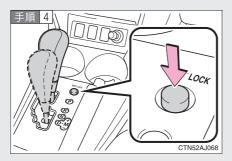
シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。ただし一時的な処置として、以下の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける。

手順 2 “エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーモードにする。

手順 3 ブレーキペダルを踏む。

手順 4

シフトロック解除ボタンを押す。

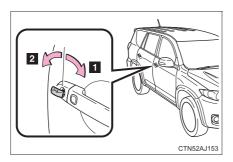
ボタンを押している間はレバーをシフトできます。

キーを無くしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。(→P. 22)

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 28）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、以下の手順でドアを開けること、エンジンを始動することができます。

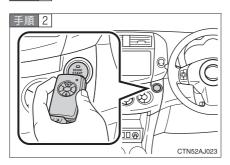
ドアの施錠・解錠（運転席ドア）

メカニカルキー（→P. 22）を使って操作します。

1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

モードの切り換え、エンジン始動の方法

手順 1 シフトポジションが P の状態でブレーキペダルを踏む。

手順 2

電子キーのトヨタエンブレム面で、“エンジンスタートストップ”スイッチに触れてください。

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー＆スタートシステムが“エンジンスタートストップ”スイッチに触れた電子キーを正しく検知できず警告音が鳴ります。

手順 3 モードの切り替え：ブザーが鳴ってから 5 秒以内に、ブレーキペダルから足を離して“エンジンスタートストップ”スイッチを押します。“エンジンスタートストップ”スイッチを押すごとにモードが切り替わります。(→P. 127)
エンジン始動：ブザーが鳴ってから 5 秒以内に、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで“エンジンスタートストップ”スイッチを押します。

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店に連絡してください。

知識

■エンジンの停止方法

通常のエンジン停止のしかたと同様、シフトレバーを P に入れて“エンジンスタートストップ”スイッチを押します。

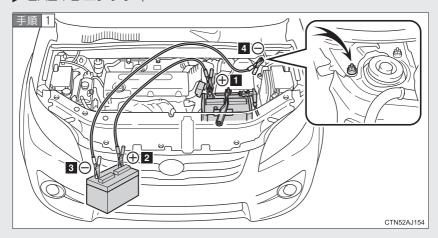
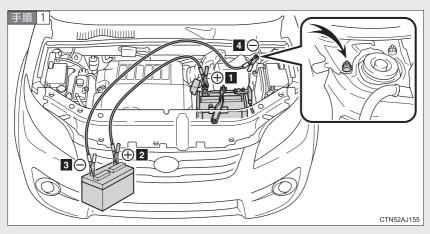
■電池交換について

前頁のエンジン始動の方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P. 263)

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、以下の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、以下の手順にしたがって、エンジンを始動させることができます。

▶ 2AZ-FE エンジン車

▶ 2GR-FE エンジン車

バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ。

1. 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ。
2. 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ。
3. 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ。
4. 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ。

手順 2 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する。

手順 3 “エンジンスタートストップ”スイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する。

手順 4 救援車のエンジン回転を維持したまま、“エンジンスタートストップ”スイッチをいったんイグニッション ON モードにしてから自車のエンジンをかける。

手順 5 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす。

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

- ●エンジンがかかっていないときは、ライトやオーディオの電源を切ってください。
- ●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーがあがったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、以下のように火や火花が発生するようなことをしないでください。

●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない

●ブースターケーブルは“＋”と“－”の端子を絶対に接触させない

●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、以下のことを必ずお守りください。

●バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液(酸)が皮膚･衣服･車体につかないようにする

●バッテリーに寄りかかったりしない

●誤ってバッテリー液が身体に付いたり目に入った場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく

●バッテリーの支柱、ターミナル、その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う

●お子さまをバッテリーに近づけない

注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートしたときは：

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める。

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する。

蒸気が出ている場合：

エンジンを止める。蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、エンジンを再始動する。

蒸気が出ていない場合：

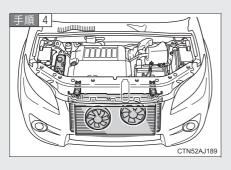
エンジンをかけたまま注意してボンネットを開ける。

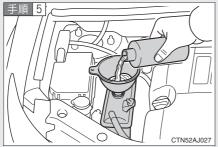
手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する。

ファンが作動している場合：

水温計の針が下がってきてからエンジンを止める。

ファンが作動していない場合：

すぐにエンジンを止めて、トヨタ販売店に連絡する。

エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水漏れを点検する。

エンジンルームカバーを取りはずすには（→P. 240）

冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する。

冷却水が無い場合は、応急措置として水を補給する。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■オーバーヒートとは

以下の状態がオーバーヒートです。

- ●水温計の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する
- ●エンジンルームから蒸気が出る

警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

- ●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。
- ●エンジンがかかっているときは、手や着衣をファンやベルトから離してください。
- ●エンジン及びラジエーターおよび補助タンクが熱いうちは補助タンクキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。

注意

■冷却水を入れるときの注意

エンジンが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは以下の方法を試みてください。

▶ 2AZ-FE エンジン車

手順 1 エンジンを止める。パーキングブレーキをかけシフトポジションを P にする。

手順 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く。

手順 3 タイヤの下に木や石などをあてがう。

手順 4 エンジンを再始動する。

手順 5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルを踏む。

TRC、S-VSC の作動で脱出しにくいときは、TRC または S-VSC を停止してください。(→P. 157)

▶ 2GR-FE エンジン車

手順 1 エンジンを止める。パーキングブレーキをかけシフトポジションを P にする。

手順 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く。

手順 3 タイヤの下に木や石などをあてがう。

手順 4 エンジンを再始動する。

手順 5 4WD LOCK モードスイッチを押して ON にする。(→P. 155)

手順 6 シフトレバーを D または R に確実に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルを踏む。

TRC、S-VSC の作動で脱出しにくいときは、TRC または S-VSC を停止してください。(→P. 157)

⚠ 警告

■脱出するときの警告

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、他の車、物または人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、とくに注意してください。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷をさけるために

- タイヤが空転するのを避け、エンジンを空ぶかししないでください。
- 前頁の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける。

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

手順 2 シフトレバーを N に入れる。

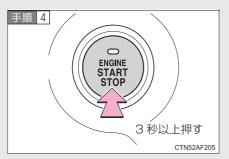
▶ シフトレバーが N に入った場合

手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める。

手順 4 エンジンを停止する。

▶ シフトレバーが N に入らない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる。

手順 4

“エンジンスタートストップ” スイッチを 3 秒以上押し続けてエンジンを停止する。

手順 5 車を安全な道路脇に停める。

⚠ 警告

■走行中にやむを得ずエンジンを切るときは

ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを切る前に、十分に減速するようにしてください。

車両仕様 6

メンテナンスデータ（指定燃料、オイル量など）

使用するオイルの品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。
トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類のご使用をおすすめします。
トヨタ純正油脂以外を使用される場合は、それぞれの油脂に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	エンジン	容量 [L]（参考値）
無鉛レギュラーガソリン	2AZ-FE	60
無鉛プレミアムガソリン※ （無鉛ハイオク）	2GR-FE	60

※ 無鉛レギュラーガソリンをお使いになることもできます。その場合エンジン本来の性能を発揮できません。

エンジンオイル

▶ 2AZ-FE エンジン車

銘柄	容量 [L]（参考値）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタ純正モーターオイル SN 0W-20 ※ —API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 0W-20 トヨタ純正モーターオイル SN 5W-20 —API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-20 トヨタ純正モーターオイル SN 5W-30 —API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-30 トヨタ純正モーターオイル SN 10W-30 —API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 10W-30	4.1	4.3

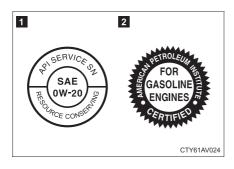
※ 0W-20 は新車時に充填されている、省燃費性に優れるオイルです。

▶ 2GR-FE エンジン車

<table>
<tr><th rowspan="2">銘柄</th><th colspan="2">容量 [L]（参考値）</th></tr>
<tr><th>オイルのみ交換</th><th>オイルとオイルフィルター交換</th></tr>
<tr><td>トヨタ純正モーターオイル
SN 0W-20 ※
—API SN, RC/ILSAC　GF-5,
SAE 0W-20
トヨタ純正モーターオイル　SN 5W-20
—API SN, RC/ILSAC　GF-5,
SAE 5W-20
トヨタ純正モーターオイル　SN 5W-30
—API SN, RC/ILSAC　GF-5,
SAE 5W-30
トヨタ純正モーターオイル　SN 10W-30
—API SN, RC/ILSAC GF-5,
SAE 10W-30</td><td>5.7</td><td>6.1</td></tr>
</table>

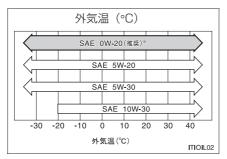
※ 0W-20 は新車時に充填されている、省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SN/RC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサック認証）マークがついています。

1 API マーク

2 ILSAC 認証マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のオイルをご使用ください。

※ 0W-20 は新車時に充填されている、省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について：

- オイル粘度表示の0Wは、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、オイル粘度の硬さを示しています。粘度の高いオイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

銘柄	エンジン	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　-12 ℃ 濃度 50%　-35 ℃	2AZ-FE	6.2
	2GR-FE	8.9

オートマチックトランスミッション

銘柄	エンジン	容量 [L]（参考値※）
トヨタ純正 CVT フルード　TC	2AZ-FE	8.7
トヨタ純正オートフルード　WS	2GR-FE	8.8

※ 容量は参考値です。交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

リヤディファレンシャル（4WD 車）

銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5 SAE 85W-90)	0.5

トランスファー（4WD 車）

銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5 SAE 85W-90)	0.45

ブレーキ

■ ブレーキフルード

銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	110 以上

※ エンジン回転時に 490 N (50 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
引きしろ 操作力 200 N (20 kgf) のときのノッチ※数	6 ～ 8

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

ウォッシャー

容量 [L]（参考値）	
寒冷地仕様車	4.8
寒冷地仕様車を除く	2.5

タイヤ

タイヤサイズ		タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)
2AZ-FE エンジン車	225/65R17 101S 235/55R18 99H	220 (2.2)
2GR-FE エンジン車	235/55R18 99H	220 (2.2)

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドライト ハイビーム（バルブタイプ：HB3） ロービーム（ディスチャージヘッドライト）	 60 35
	車幅灯	5
	フロントフォグライト（バルブタイプ：H11）	55
	フロント方向指示兼非常点滅灯	21
	サイド方向指示兼非常点滅灯	LED ※
	リヤ方向指示兼非常点滅灯	21
	制動灯＆尾灯	LED ※
	後退灯	16
	ハイマウントストップライト	LED ※
	番号灯	5
車内	インテリアライト	8
	パーソナルライト	8
	ラゲージルームライト	5
	バニティライト	8
	足元照明	LED ※

※ LEDは、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
ACA38W	2AZ-FE（2.4L ガソリン）	FF（前輪駆動）
ACA33W		4WD（4 輪駆動）
GSA33W	2GR-FE（3.5L ガソリン）	4WD（4 輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備がついています。トヨタ販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

項目	機能の内容	初期設定	変更後
スマートエントリー&スタートシステム（→P. 24）	スマートエントリー&スタートシステムの作動	あり	なし
	作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし
	作動の合図（ブザー）	あり	なし
ワイヤレスドアロック（→P. 34）	ワイヤレスリモコンの作動	あり	なし
	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒
	作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし
	作動の合図（ブザー）	あり	なし
	半ドア警告ブザー	あり	なし
ライト自動点灯・消灯システム（→P. 144）	ライトセンサーの感度調整	レベル３	レベル１～５
	ライトを点灯するまでの時間	標準	長め

項目	機能の内容	初期設定	変更後
イルミネーション (→P. 189)	消灯までの時間	15 秒	7.5 秒
			30 秒
	解錠時の作動	あり	なし
	“エンジンスタートストップ”スイッチ OFF 後の作動	あり	なし
	足元照明の点灯	あり	なし

さくいん

ナビゲーションシステム（オーディオ・タッチスクリーンなど）は、
別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
4WD	4 ホイールドライブ
ABS	アンチロックブレーキシステム
EDR	イベントデータレコーダー
EPS	エレクトリックパワーステアリング
FF	フロントエンジンフロントドライブ
INT	インターミッテント
LED	ライトエミッティングダイオード
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
S-VSC	ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール
TRC	トラクションコントロール

五十音順さくいん

え

お

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

く

け

し

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

症状別さくいん

CTNPIAJ027

■警告灯一覧

表示	警告灯	参照
	ブレーキ警告灯	P. 281
	充電警告灯	P. 281
	油圧警告灯	P. 281
	エンジン警告灯	P. 282
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯	P. 282
	ABS & ブレーキアシスト警告灯	P. 282
	パワーステアリング警告灯	P. 282
4WD	4WD 警告灯	P. 282, 283
	ディスチャージヘッドライトオートレベリング警告灯	P. 282
	半ドア警告灯	P. 283
	運転席シートベルト非着用警告灯	P. 283
	助手席シートベルト非着用警告灯	P. 283
	スマートエントリー&スタートシステム警告灯	P. 284
	燃料残量警告灯	P. 283
	オートマチックトランスミッション油温警告灯	P. 283
CRUISE	クルーズコントロール表示灯（点滅）	P. 282
VSC OFF	VSC OFF 表示灯（点滅）	P. 282
	スリップ表示灯	P. 282

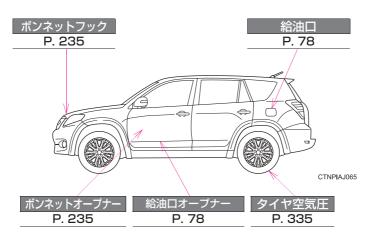
警告音が鳴った

■警告灯が点灯、点滅している(→P. 281)

■警告灯の点灯、点滅がないときは、以下のことを確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 31
	車外に出たとき	
	スマートエントリ＆スタートシステムでロックスイッチを押したとき	
	ワイヤレス機能でロックスイッチを押したとき	P. 34
	“エンジンスタートストップ”スイッチを押したとき	P. 31
走行中	シフトポジションを R にしたとき	P. 133
	シフトダウンしたとき	P. 133
	ブレーキを踏んだとき	P. 124

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

燃料の容量 (参考値)	60 L
燃料の種類	2AZ-FE エンジン車 無鉛レギュラーガソリン　P. 79, 328 2GR-FE エンジン車 無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）
タイヤが冷えているときの空気圧	225/65R17 101S：220 (2.2) kPa (kg/cm^2) 235/55R18 99H：220 (2.2) kPa (kg/cm^2)
エンジンオイル容量 (参考値)	オイルのみ交換時 2AZ-FE エンジン車：4.1 L 2GR-FE エンジン車：5.7 L オイルとフィルター交換時 2AZ-FE エンジン車：4.3 L 2GR-FE エンジン車：6.1 L
エンジンオイルの種類	トヨタ純正モーターオイル ・ SN 0W-20 (API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 0W-20) ・ SN 5W-20 (API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-20) ・ SN 5W-30 (API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-30) ・ SN 10W-30 (API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 10W-30)